

序章 いつも心に留めおいて欲しいこと4つ

1つめです。

「貴女の趣味は何ですか」と聞かれて「ラーメンです」と答える人はいませんね。趣味がラーメンなんておかしいですもんね。しかし、「ラーメンを食べ歩くこと」ならどうでしょう。

私が序章で述べたいのは、これから皆さんが「書く」という作業に取り組むときに、出題者が「何を問うているのか」、「何について書けとっているのか」を徹頭徹尾、チェックしてほしいということなのです。そんなこと当たり前じゃないかといわないでください。皆さんの小論文や作文を読んでいると、案外「貴女の趣味は何ですか」「アイスクリームです」といった答案がみられるのです。それを避けるために、私が入試問題にあたるときには必ず、問題文に

問

ア イ ウ
について、その原因と問題点、貴女の感想を述べなさい

ア原因・イ問題点・ウ感想 と、出題者が求める項目（内容）に符号を打つようにしています。そして答案は、

が起こった原因は、～であり、また、問題点は～である。さらに、私は～と考える。

といった手順で書きます。こうすると、順序立てて書きやすく、漏れもない。こちらが書きやすいということは、読み手も読みやすいということです。

問

ア イ
趣味と特技を述べなさい。

（答え）私の趣味は碁を打つことで、特技は幾らでもビールを飲むことができることです。（ワッ！）

まっ、こんな調子です。

「3年間の高校生活で努力したことについて書きなさい」というテーマを与えられて、それがどんなに素晴らしい内容であれ、修学旅行や体育祭で「思い出に残ったこと」を書いては絶対にいけません！

2つめです。

決して考えながら書かないでください。考えながら書くと、文章があっちへ行ったりこっちへ行ったりグラグラ揺れて、読んでみると目眩がしてきます。書いている方も、文章がどこへ行くのか、行き先はエンピツに聞いてくれと言った具合で何を書いているのやら

分からない。書き手が分からない文章を読み手が分かるわけがありません。

ではどうするのか。「始め！」のベルが鳴って3分もするとエンピツの音が聞こえてきます。焦るよね。時間がない、急がなきゃと思う。でも、まだ本文書いちゃダメ。いや、開始3分や5分では、まだまっとうな文章は書けるはずがないのです。今、音を響かせて書いている人のエンピツは必ず間もなく止まります。また、よほどの書き手でない限り文章がぶれ出します。理由は簡単で、考えながら書いているからです。

文章を書くというのは、ちょうど料理をするのと同じです。材料を集める。料理を決める。そして、順序よく調理する。

ア 料理は「主題」です。文章の命。主張したいこと。

イ 材料は「傍証」です。主題の正しさを証明する具体的な例話。

ウ 調理は「構成」です。どの順序で配列するか。

予備に渡されたメモ用紙にこれらを個条書きに書き出すのです。この作業が終わったら、作文であれ小論であれ書けたも同然です。後は調理（文章を書く）するだけです。だけど、慎重にね。焼きめし創ってて、一番最後に卵かけたらベチャベチャになって不味くなってしまいますから。

3つめです。

冷蔵庫の中にご飯がないのに「焼きめし」を作ろうとする人がいます。ご飯がないのに「焼きめし」は作れませんよね。

「焼きめし」は主題です。今夜のおかず = 最も言いたいことです。

冷蔵庫の中の材料「傍証」の材料は調べていますか。材料がないのに無理矢理、調理（主題）をしてもおいしい料理（説得力のある文章）はできません。冷蔵庫の中をのぞいたら、肉がある、卵もある、ハムもある、ネギもある、ソースもある、もやしがある、うどんがある。でもご飯はない。

貴女なら、何を作りますか？

主題は「焼きめし」ではなく、「焼きうどん」でなければならない、ということなのです。まず、「主題ありき」ではなく、主題の選択は、書き手が持っている傍証のための材料の量と質によって決まることを肝に銘じてください。

さいごです。

一文は、最長でも50字まで。原稿用紙で言えば2行半で一回切る。一文が長くなると文章がねじれ、係り受けが遠くなり、まあ、ろくな事はないのです。50字で必ず切ります。切りなさい。

もう一つ。「迷ったら、書かない」。切る。文章を書いているとあれも書きたいこれも書きたい、ついつい書くんですね。で、同じ事を繰り返し、くどくなる。どうしようかな、と思ったら迷わず切る一手。切っても切ってもそれでも私の文章は大概くどく、迷って残して良い文章になった経験はないですね。

私はバスケットボール部の監督である山崎先生の文章が好きで、素晴らしいと思っています。先生の書かれるものは、シンプルで無駄がなく、深い情に溢れています。「先生はどこで文章の勉強をされたのですか」と前にお聞きしたことがありましたが、お答えにはなりませんでした。先生の生き方、お人柄が文章ににじみ出ているのだと解釈しています。

目 次

第1章 作文と小論文の違いは何か

- 1 作文編
- 2 文体について
- 3 文章を書く手順
- 4 作文実践
- 5 小論文編

第2章 グラフ読み取り型小論文に挑戦する

- 1 折れ線グラフを読む
- 2 棒グラフを読む

第3章 文章読み取り型小論文に挑戦する

第4章 テーマ小論に挑戦する

第5章 志望動機

- 1 就職編
- 2 進学編

第6章 自己推薦書

第7章 表記上の注意

第8章 はがき 手紙分の書き方

第1章【作文と小論文の違いは何か？】

1. 作文編（作文とは何か）

学校行事『歓迎遠足』

4月28日。新入生歓迎遠足実施。雨天順延。9時、クラス順に「唐八景」に向け出発。到着後、部活生による1年生歓迎のレセプション有り。その後、昼食、自由時間。2時現地出発。帰路は「真心運動」をしながら、学校へ。

Aさんの作文 題：『歓迎遠足』 字数：800字程度

4月28日に新入生歓迎の遠足がありました。雨が降ったら延期になるということだったので、天気がずっと気になっていましたが、朝起きて窓を開けると昨日の雨が嘘のように青空が広がっていて、私はとてもうれしくなりました。ジャージに履き替えて、用意していたお菓子とお弁当と水筒とをナップサックに入れて学校に向かいました。

HRのあと9時に学校を出発して、汗ばむような春の日の下を友達といろいろ話しながら歩き、10時30分ごろ「唐八景」に到着しました。1年生を迎える運動部の部活生たちの工夫を凝らした様々なパフォーマンスの後は、クラスのみんなで遊んで、あっという間に下山の2時がやってきました。お弁当を食べながら、これまであまり親しくなかった級友ともたくさん話ができとてもうれしかったです。

2時過ぎに唐八景を出発してクラスごとに学校に向かって歩き始めました。生徒会の提案で帰り途は「真心運動」をしながら歩きました。生徒全員、軍手を左手にはめて道に捨てられているたばこの吸い殻や空き缶などのゴミを拾い、右手に提げたナイロン袋に入れながら歩きました。たばこの吸い殻や空き缶が水に濡れていてとても気持ち悪かったです。

しまいにはなんでゴミを捨てたりするんだとムカついてきました。帰り道は下りでしたので、おおよそ1時間で学校に到着しました。ナイロン袋の中はゴミで一杯になっていました。さすがに、長い距離を歩いたので疲れましたが、道路もきれいになったし、クラスのみんなとも仲良くなれたので、気持ちの良い初夏の一日となりました。明日はきっと足が筋肉痛になっていると思います。18歳はもうおばさんなんだなと思うと少し悲しいです。

「歓迎遠足」というAさんの作文を読んで、どんなことが分かりましたか？

「Aさんは遠足が雨で順延にならず、晴れてうれしかった。」のように、「Aさんは」を主語にして箇条書きにして書き上げてみましょう。

たとえば、

「Aさんは、おかしやお弁当などを準備して、うきうきしていた」のように...

(答えの一例)

- * Aさんは、友人といろいろ楽しく話をしながら唐八景に向かった。
- * Aさんは、これまであまり親しくなかった級友と話せてうれしかった。
- * Aさんは、「真心運動」をしながら下山し学校に向かった。
- * Aさんは、捨てられたゴミがぬれていて気持ちが悪かった。
- * Aさんは、ゴミを拾う内になぜゴミを捨てたりするのかと腹立たしくなってきた。

- * Aさんは、ナイロン袋一杯のゴミを拾って、およそ1時間で学校に到着した。
- * Aさんは、疲れたけれども、ゴミも拾ったし、クラスの人々と楽しい1日が過ごせて気持ち良かった。
- * Aさんは、明日は筋肉痛になるだろう自分を想像し、年を取ったものだと思うとちょっと悲しい気分になった。

「Aさん」を主語にした各文章から、何か共通項(点)は読み取れませんか？

実は、すべてAさんが「おこなったこと」か、またはAさんがおこなったことに対してAさんが「どう感じたか」、「どう思ったか」が述べられているのです。これが作文です。つまり、作文とは、筆者が一つの「現実」や「体験」、場合によっては「あることば」に対してどのように感じたか、どう思ったかということが書かれた文章なのです。そこからは書き手の価値観や感性、人柄が読み取れます。自分の会社で働いてもらうのにふさわしい人物、人柄であるかどうかを知りたい就職試験に作文が課される理由はここにあります。

ところで、この作文の評価はどうでしょう。小学生の作品なら花丸でしょうね。しかし、高校生の作品となるとちょっと厳しい。貴女はこの作品に何点をつけますか？私が採点者なら30点をつけるところです。表記に誤りはありませんし、時間を追った構成も、特に「まずい」とはいえない。では、100点までの残りの70点は何か。

それは、「テーマ」です。この作文には文章の中心に座る「テーマ」がないのです。歓迎遠足の前日から学校への帰着までの出来事と感想が時間を追って淡々と述べられているだけなんです。読んでいて退屈な理由はそこにあります。では、「作文にテーマがある」とはどういうことでしょうか。Bさんの作文を読んでください。

Bさんの作文 題：『遠足に感謝』 字数：800字程度

4月28日に新入生歓迎遠足がありました。クラスも新しく変わったばかりなので、みんなと親しくなれるチャンスだと思い私はとても楽しみにしていました。遠足の前日、授業が終わってからC子さんと一緒に街におやつを買いに行きました。途中C子さんが、「明日お互いにお弁当を作って交換しようよ」と提案しました。面白そうなので私も賛成し、二人でスーパーに入りました。クッキーなどを作ることが好きな私ですが、料理の方は全くと言っていいほど経験がなく内心ドキドキでした。

それでも普段お母さんが作ってくれるお弁当を思い浮かべながら、ウインナーや卵、肉、キャベツなどを買い帰宅しました。

夕食後自分の部屋でどんなお弁当を作ったらC子さんが喜んでくれるだろうと想像しながらメニューを考えました。翌朝5時に目覚めたわたしは早速お弁当作りに取りかかりました。おにぎりを作るのに炊きたてのご飯を手のひらにのせた途端、あまりの熱さに思わずご飯を放り出してしまい床がお米だらけになりました。見ると手のひらが真っ赤です。卵焼きは形が悪く焼き肉と野菜の炒め物は塩をかけすぎて二度も作り直しました。私は学校に遅刻しそうになり、食器や野菜のくずでゴった返した炊事場を後にし、母の仕事をひとつ増やしてバス停へと向かいました。歩きながら、普段母は何も言わずに来る日も来る日も家族のために朝夕の食事や弁当を作り、掃除や洗濯をしてくれていることを思いました。『それなのに私は、それが当然であるかのような生活を送ってきた。そこに感謝の気持ちを抱くことはほとんどなかった。』弁当一つ作っただけですが、私は、母の仕事の大変さの一端を知った気がしました。普段は気づかないけれども、母だけでなく、私は多くの人に支えられて生活ができていたんだと思います。歓迎遠足の弁当作りは私に自分の生活を振り返る機会を与えてくれました。遠足に感謝。C子さんは私の作ったへたくそなお弁当を「おいしい。おいしい。」と食べてくれ、山桜の舞い散る中で多くの級友とたくさん話もできました。帰路は「真心運動」をしながら歩き、とても気持ちの良い一日となりました。

Aさんの作文とBさんの作文には決定的な違いがあります。Bさんの作品は「歓迎遠足そのもの」を書いているのではなくて、「歓迎遠足にまつわる出来事」について文章を展開しています。C子さんに食べてもらうために「歓迎遠足に持って行く弁当作りを通して」、お母さんや自分の日常を思い、感謝の念を抱くに至る過程が語られています。最後に「真心運動」を入れ込んで、一步成長した自分に爽やかなものを感じながらの結びとなっています。

作文は「課題」で出題されますので、後述する「テーマ小論の書き方」の項でも述べるように、どの角度(視点)で「課題」を切るかで勝負が決まります。学校行事『歓迎遠足』にたいする切り口は他にも、

ア．昼食時の友人との会話から信頼が生まれるストーリー

遠足で、普段は冗談や芸能界の話など差し障りのないことしか話さなかった級友と、真剣に悩み(進路・病気・家族)を打ち明け合っけて信頼できる親友となった。

イ．帰路の「真心運動」にスポットを当てるストーリー

楽しかった遠足の帰路、道に転がる空き缶やたばこの吸い殻を拾いながら公共心の欠如した人々や社会に対する思いを述べ、奉仕活動の本質や自分のなすべき行動に話を導く。

ウ．新入生歓迎のアトラクションにまつわるストーリー

部活で新入生歓迎のアトラクションを出そうということになった。出し物について、部員同士の意見が対立する。本音で意見をぶつけ合った後にお互いの理解が深まる。限られた時間の中での必死の練習の再開。当日の「成功」。生まれる達成感。団結の大切さをテーマにしての作品も書けそうです。

エ．自然の中に生きる生物(野に咲く花や空を飛ぶ鳥、草の間をはう虫)を見て、「生きる」と言うことについて思いを巡らす話も書けますね。

このように、「歓迎遠足」について書くといっても、様々な角度から書くことが可能です。他にもたくさんの切り口があるはずで、普段から様々な視点で世の中の事象を見つめる訓練をしておくことがいかに多くの切り口を持ちうるかの鍵を握ります。

ところで、切り口の求め方は基本的に、「全く自由でよいもの」と「先方の意図を汲み取って書くべきもの」とに分かれます。

たとえば、大学や短期大学の入試問題で「5年後の私」などと出題された場合には、題を見た瞬間に切り口は決まったも同然です。

皆さんが出題者(大学側)であれば、どういう意図で「5年後の私」という題を設定するでしょう。

先方は『貴女は本校に入学した後、どのようなキャンパスライフ(勉学・資格取得・サークル活動などによる人格形成)をおくり、卒業後どのような社会人として活躍しようと考えていますか』と問うているのです。

作文や小論文を書くにあたって、出題者の意図を読むことは大変重要な仕事の一つなのです。

A子さんの作品、『5年後の私』を読んでみましょう。

5年後の私は23歳になっています。23歳といえばもうおばさんなので想像するのが怖いです。また、5年後の私といわれても、正直、どうしているのか今の私には全くわかりません。長崎にいるかもしれませぬし、以前から東京には憧れがあるので、上京

して六本木あたりのどこかの会社に勤めているかもしれません。しかし、今は就職も厳しいのでOLにはなれずに、コンビニでアルバイトをしているかもしれません。東京に行ったらたくさんの演劇やコンサートに行って楽しい時間を過ごしたいです。また、昨年修学旅行ではじめて行って以来、ディズニーランドが大好きになりましたので、できれば年間会員になって友達と毎日花火大会に行けたら最高だなと思います。

たぶん、まだ結婚はしていないと思います。ボーイフレンドはほしいけれど、30歳くらいまでは独身でいて、自由な時間を自分のためにおおいに使いたいと思います。わたしは子供は好きなのですが、結婚して出産すると、本当にノイローゼになるくらいに赤ちゃんに手がかかり、肉体的にも精神的にも経済的にも大変だと帰省するたびに姉がこぼしていますので、それな

A子さんは自分に正直な女性なのでしょうが、冒頭の「5年後の私といわれても、正直、どうしているのか全くわかりません。」は課題に対する記述としては最悪です。先方は「5年後の私」を書け、と言っているのです。「わからない」、「想像がつかない」は答えにはならないのだから絶対に書いてはいけません。この時点でこの作品は失格です。また作品からは、人生に対する設計や、勤労意欲も感じ取ることができません。22歳までの大学生活の内容にも触れていない。最後の6行は「5年後の」という出題者の設定からも外れ、残念ですがこの作品は、限りなく0点に近いといわざるをえません。

Aさんに同じくB子さんの「5年後の私」を読みましょう

現在高校3年生である私たちは受験を目前に控え、それぞれに将来像を思い描いている。まずは高校を無事に卒業し、希望する進路にすすむことが目標だが、それはあくまでも目標であり目的ではない。

私は中学生の頃から漠然と将来は先生になりたいとっていた。高校生になってそれが確かなものになったのだが、それまでにさまざまな先生と出会い、さまざまな影響を受けた。先生、と一口に言っても十人いれば十通りの先生が存在する。私はその中でも高校一年生から三年間現代文を習った先生に大きな影響を受けた。先生は博識で、国語の面白さを私たちに伝えようと工夫を凝らした授業を展開してくださった。私はこの「工夫」というのがとても大切なことなのではないかと感じている。

大学を卒業した後、私は国語の先生になりたいと考えているが、大学生活の中で国語以外の様々な分野も勉強し、幅広い知識を身につけ教師としての自分の土台となるものを作り上げていきたい。五年後には工夫を凝らしたわかりやすい授業を展開国語の得意な生徒だけでなく苦手な生徒にも国語の面白さを伝えられるような先生として教壇に立っていたいと考えている。

中学生の頃から漠然と将来は学校の先生になりたいとっていたB子さんは、様々な先生と接してきたが、中でも高校一年生から三年間現代文を習った先生に大きな影響を受け志望を確かなものとする。四年間の充実した大学生活を終えた五年後のB子さんは、授業に工夫を凝らして、恩師のように国語の面白さを国語の得意な生徒だけでなく苦手な生徒にも伝えられる教師として活躍したいと五年後の抱負を述べている。A子さんの作品と違って明確に五年後の自身の姿が提示されており、五年に至る四年間の大学生活への決意、さかのぼって言えば、国語教師への志望が固まる契機も具体的に述べられており説得力がありますね。

そういえばかつてこんな事がありました。長崎大学の水産学部のAO入試に臨んだTさんという生徒がいました。練習していた小論文も結構書けていたので「8:2でいけるかな」と私は内心思っていました。当日は、面接と小論文でした。学校に帰ってきたTさんに「何が出た?」と聞きました。「現在牛肉を食べる人が世界中で増えて、牧草が荒れて

困っているのだが、どうしたらよいと思うか述べよ、といったテーマでした」とTさんは答えました。「やった！」と私は思いました。答えは100%これ一つ、という小論のテーマだったからです。「で、何と書いた」とTさんに尋ねました。Tさんの返答は突き詰めると次のようなものでした。「牛を減らし、牛肉の値段を上げてお金のない人が食べられないようにする」。私は絶句しました。

みなさんならどう書きますか？15分で正解が答えられたらジュース一本驕りますよ。

「絶対の正解は、**魚を食べる**。」です。かつての日本人の食事は米の飯と野菜と魚介中心でした。戦後、食事の欧米化が進み偏った肉食による食事から生活習慣病を引き起こしたり、肥満傾向にあり生活習慣病予備軍といった人々が増えています。一方において青魚はコレステロールを下げ、良質のタンパク質を有し、魚介は肝臓の機能回復にも有効です。海洋資源を守るため、養殖や品種改良の研究も盛んに行われています。日本は水産を基幹産業の一つとしており、今Tさんが受験しているのは水産県長崎にある長崎大学の水産学部なのです。どうです。答えまで一本道でしょう。

Tさんは、入試で緊張し、視野は極めて狭くなっていた。課題だけを見て、自分が何学部を受験しているのかさえも抜け落ちてしまっていたのです。Tさんの話は、出題者に意図があったにも関わらずそれを見落としてし失敗してしまった好例です。Tさんが、合格に至らなかったことはいうまでもありません。

就職試験の定番である「社会人になるにあたって」というテーマについて書く場合も考え方は同じです。やはり、**出題者の意図を読みます**。意図を読む考え方の手順を図式化すると下図のようになります。

「社会人になるにあたって」

「まもなく社会人になる」

「なる」ということは

「今はまだ、社会人ではなく高校生である。」

「高校生と社会人の違いは何なのか」

「両者の違いを十分に認識した上で社会に出ようという意識や準備ができているか」

会社の人事担当が知りたいのは、社会に出るにあたって、受験者が「高校生」と「社会人」の違いをしっかりと認識できているかということです。「高校生」と「社会人」の違いを表す**キーワードはもちろん『責任』**です。受験者に、これから自社の『信頼』を背負う社会人として、その責任の重さをどのように考え、行動する覚悟でいるのかを述べて下さいと言っているのです。

就職の作文では、

- 「職場を明るくするには」
- 「貴女が考えるビジネスマナー」
- 「学生と社会人の違いについて」
- 「私の人生設計」
- 「高校生活で得たもの」

などが例年多くの企業で出題されています。

就職の作文は600字～800字が一般的です。

誤字脱字・文字の丁寧さも採点の大きな基準になりますので注意してください。

また、「内容よりも、文字のきれいさ・正確さを見ている」と仰った人事担当もいらっしやいました。販売職や事務職は字を書くことも多いので、文字力、文字の丁寧さを重視しているわけです。

2. 文体について

作文には「です・ます調」がよいと書いている本が多いようですね。私も特に書き手にこだわりがなければ、自分の気持ちや感じ方を表現する作文には「だ・である」より「です・ます」が適していると考えます。

一方、小論文には「だ・である調」がよいということが多いようです。「です・ます」と「だ・である」が同じ作品の中に混在するのは御法度ですが、小論文だからといって「です・ます」で悪い理由はありません。しかし、客観的・論理的に自分の考えを述べる小論文は断定の「だ・である調」が書きやすいのではないかと思います。時々「だ・である調」で書けば小論文、「です・ます調」で書けば作文と考えている生徒がいますが、これはとんでもない誤りで単なる文体の違いに過ぎません。

「思う」と「考える」の使い分けについてもよく質問を受けますが、「作文」と「小論文」の違いをしっかりと理解していればその使い分けの基本も自ずと分かるはずで、さらに、「思う」や「考える」は小論文では用いず「～だ。～である。」しか使ってはいけないのかという質問を受けることもありますが、文末がすべて「～だ。～である。」と断定的表現で終止するというのも書き手の独断性をイメージさせて感心しません。また、YES・NOの立場に立って結論を導く型の小論文の文末で「～べきだ。」を用いるのはやや強引であり、「～であると私は考える。」がよいとされます。

最後に、作文の場合でも、ましてや小論文においては「～であるような気がする」で終止する文体だけは避けて下さい。

3. 『文章を書く手順』 長い文章が書けないと言うけれど.....

文章が「読めても」必ずしも「書けません」が、「書ければ」、「読める」というのは、真実です。したがって、現代文の読み取りの力（読解力）をつける最も遠くて近い道は実は「書くこと」なのです。書くことと読むことは、同じ思考の表と裏の関係にあります。

では、実際に文章を書く手順について述べてみましょう。序章のその2・その3を思い出してくださいね。復習です。乱暴な物言いになりますが、すべての文章は突き詰めていくと、一文に収斂されます。この一文がすなわち文章の命「主題」です。主題とは、読み手にこの論文で、あるいは小説で、作文で、私は「このことについてこう考えているんだ」という主張です。

今、「高校生活で学んだこと」について書いてください、という課題が与えられたとします。当然、文章の命である「 を学んだ」を書くわけですが、書く作業の手順の第一は、実は「学んだこと＝主題」探しではなく、序章で述べた「何を通して」という具体的な体験談や事実すなわち傍証の材料探しなのです。

主題を決めるために、主題を支える材料を探すんですね。ご飯がないのに焼きめしを作らないために。

では、話を元に戻します。

テーマ「高校生活で学んだこと」

3年間の高校生活の中でどのようなことがあったか。自分はどのような体験をしてきたかを箇条書きに書き連ね、振り返ることです。

そして、その作業を終えてから、

それらの体験を通して、自分は「何を学んだか・身につけたか」と考えます。

広告用紙の裏にでもいいです。高校生活でどんな体験をしたか、何が最も思い出深い出来事であったかどんどん箇条書きに書き上げてください。

体育祭で色別の応援に燃えたこと。苦手な科目の克服に努めたこと。親友ができたこと。部活をがんばったこと。皆勤を目指したこと（皆勤できていなくていいのです）。修学旅行で班内でトラブルがあったこと。「真心運動」に取り組んだこと……。

いくらでも出てきますね。思いつくだけ、書きあげます。さまざまなことを体験した3年間であったことが分かりました。

では次に、箇条書きにして並んでいる思い出や体験から、自分は「どんなことを学んだか」「何を得たのか」を「 」を引いて書いていきます。たとえば、下図のように。

体育祭の色別応援	団結する大切さ。協力して成功させたときの喜び
文化祭の模擬店や展示	団結する大切さ・達成感
苦手な科目の克服に努めたこと	ねばり強く努力することの大切さ
部活動	厳しい練習・勉強との両立 克己心を養えた

最後の作業に入ります。それらの中で、最も印象深く、かつ、最も具体的に体験の内容を書くことができるものを1つ選択します。 これで、どのような作品になるかが決まりますから慎重に選択してください。

選択が終了した人の作品はこれで70%完成です。序章の料理の礼で言えば、メニュー（主題：何を学んだか）も材料（具体例：どんな行事や出来事を通して）もそろったのです。後は、調理の手順（構成）を間違えないようにするだけです。

ところで、皆さんの中には長い文章は書けない、難しいと言う人がいます。なぜ多くの生徒さんが、文章がすぐにつかえて、600字や800字は書けないのでしょうか。私は先ほど3番目の作業の中で、『最も具体的に体験の内容を書くことができるものを選択してください』、とお願いしましたね。文章が少ししか書けないという生徒さんの作品は皆そろって、「どういう体験」の部分の具体性に乏しいのです。 作品の長さは主題を支える根拠に当たる事実や体験談の具体性の程度で調節します。

「一生懸命努力した」「がんばった」。などといった表現もよく見かけますが、「いつ」、「何を」、「どのように」ががんばったのかを書けば文章も伸びるし、読み手にとって説得力ある文章が書けます。同様に、*すばらしい・*やりがいがある・*とても など要するに表現が抽象的なのです。

抽象から具体へ。具体から抽象へ。文章の構成も長短の調節もこうしておこないます。

4. それでは実際に作文を書いてみましょう。次の4つ課題の中から一つ選んで600字で書いてみましょう。時間は50分です。

テーマにもよりますが、600字ならば、柱は1本ですね。800字ならば2本かな。複数の柱を立てる場合の書き方は、

『高校生活で学んだこと』

私は3年間の高校生活で、2つのことを学びました。1つ目には.....
次に(2つめには).....

と、このように書くと書きやすいでしょう。

【課題】

- 『高校生活で得たもの』・『高校生活の思い出』
- 『3年後の私』・『将来の夢』

5. 小論文編

作文とは、筆者が一つの「現実」や「体験」、場合によっては「あることば」に対してどのように感じたか、どんな気持ちになったか、どう思ったかということが書かれた文章でした。

それに対して小論文は、筆者が一つの「現実」や「体験」、場合によっては「あることば」に対して何らかの意見(主題)を持ち、その意見の妥当性を証明するために、客観的で具体的な根拠(体験や見聞)をあげて自分の意見を述べた文章を指します。

小論文は、書き手の人柄を見るために科されるのではなく、「論理的思考力」(筋道立てて考え、表現する力)の優劣を確認するために書かせるのです。

従って、ちょっと乱暴な言い方もかもしれませんが、
「 について～私は、 だと考える。なぜなら、 ～という具体的根拠があるからだ。」という文章なのです。

構成は「 」・「 」どちらでも書けます。一般論として自身の主張を述べた後、客観的な具体例をあげて証明する文章の展開を難しい言葉で言うと演繹法(えんえきほう)といいます。また、客観的な具体例を挙げておいて一般論として自身の主張をまとめる文章の展開を帰納法(きのうほう)といいます。

【論文作成の留意点のまとめ】

- ア. 論理的であること
- イ. オリジナリティ(独創性)があること
- ウ. 説得力があること
- エ. 根拠を明らかにしていること
- (オ) 配付された資料以外にこれまで読んだモノや体験を適宜活用すること

- ア. 文章が筋道立てて展開されているか
- イ. 課題文のなぞり書きになっていないか
- ウ. 主張の根拠は適切か
- エ. 具体的かつ客観的であるか
- オ. 材料(資料や知識)を普段から仕入れ込んでおく。インターネットの活用

入試における小論文の形式は大きく次の3つに分かれます。

1) グラフ読み取り型

折れ線・棒・円などのグラフを複数読み取らせて、問1で分析をさせ、問2で分析の背景や理由、意見を述べさせる。長崎大学の経済学部夜間主コースは例年この形式の小論文です。経済系や理系で多く見かけます。センター試験の「英語」の中にもグラフの読み取りがありますので、1年生のうちからグラフを読み取る手法を訓練しておく必要があります。

2) 文章読み取り型

文章を読ませて、意見を述べさせます。先に要約をさせる場合もあります。

3) テーマ型

課題だけが与えられて自分の意見を述べます。課題作文と同じですね。

みなさんは、1・2・3のどの小論文が一番書きやすいと思いますか。私の経験からすると、3の「テーマ型」と答える生徒が多いように思います。ところが、実はその「テーマ型」が最も難しい。一番易しいのは、「グラフ読み取り型」です。だって客観的なデータが目前にあるんですから。2の「文章読み取り型」も文章を読んで書く訳ですから読解能力と要約力が必要ですが、資料があるだけ書きやすい。大崩れが少ないんです。その点「テーマ型」は題だけしか与えられていないわけですから、いかようにも書ける代わりに、切り口を間違えると見当外れのとんでもない作品ができあがってしまう可能性が大きく一番危険性が高いのです。

第2章【グラフ読み取り型小論に挑戦する】

グラフ読み取りでは、「問一 図1～図 のグラフから読み取れることを 字でまとめなさい。また、問二 グラフから読み取れる内容に関して貴女の意見を述べなさい。」のようにグラフの分析と意見を分けて求めるパターンが断然多い。

このとき、問1の「グラフから読み取れること」では、「いつ」・「何が」・「どのように」この3点に絞って書くことです。決して「なぜ」は書かないこと。「いつ・何が・どのように」です。グラフ読み取り型の小論を課される人は、寝言のように繰り返すつづやいてください。グラフは必ず変化する。「いつ・何が・どのように」。

「何%・何年・何倍」など具体的な数値や割合を使いながら、制限されている字数に応じて最も顕著に読み取れる項目から順に書いていきます。

1. 折れ線グラフを読む

「いつ」、「何が」、「どのように」変化しているかを読む。

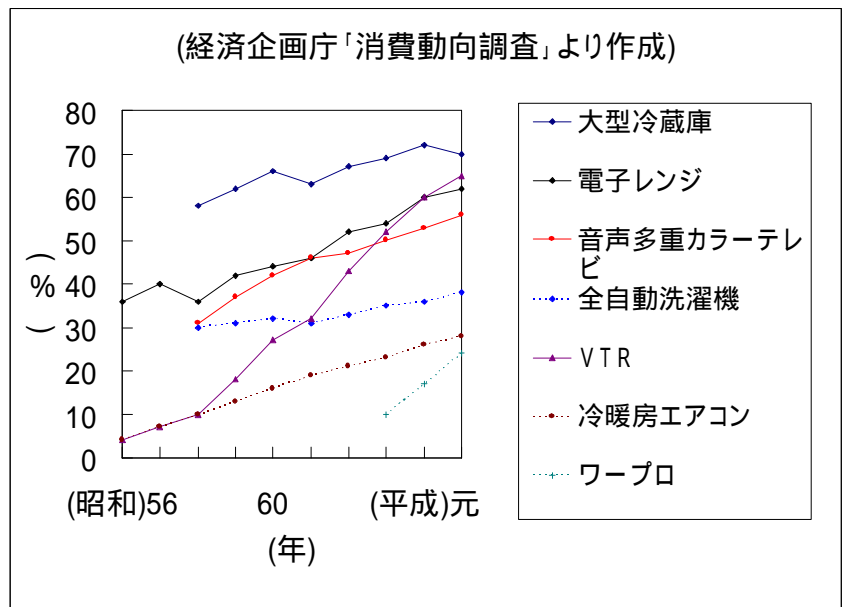
(グラフは必ず変化する)

最も大きく変化している項目や年次に着目します

では、実際に出題された問題に西村が挑戦してみます。皆さんも一緒に書いてみてください。

問 右の図から読み取れることを400字以内でまとめよ。また、これらが私たちの生活をどのように変えてきたかを800字以内で具体的にまとめて述べよ。

(ちょっと昔の資料でごめんなさい)



【課題 1 : グラフの読み取り 400 字】

昭和 58 年に数%と普及率が最下位であった V T R は、昭和 59 年から普及が加速し平成 2 年には 70% に迫っており、大型冷蔵庫について第 2 位に浮上している。音声多重カラーテレビと全自動洗濯機は昭和 58 年に販売が開始され約 30% の普及率であったが、音声多重カラーテレビが平成 2 年まで緩やかに普及を続けて 50 数% でまで上昇したのに対し、全自動洗濯機は 30 数% と横ばいの状態である。昭和 50 年代は普及率が 40 パーセント台にあった電子レンジは昭和 61 年以降数% の普及を続け平成 2 年には 60 数% まで上昇している。冷暖房エアコンは昭和 58 年にはおよそ 10 パーセントの普及率と最下位であり、その後も年間約 3 パーセントの上昇を続けながらも、平成 2 年に至ってなお 30% の普及率と、ワープロを除いて他の家電製品の中では普及率が最も低い。ワープロは昭和 63 年の 10% 強から平成元年、2 年と 5 ポイントずつの大幅な上昇を見せている。

練習の過程では、制限された文字数を伸ばしたり、1 / 2 に縮めたりする練習をすると要約力やグラフの読み取りの力がつくのでおすすめです。 このグラフの読み取りで 400 字は長いと私は思います。私が試験官なら 300 字までで出題します。試しに、200 字に要約し直してみます。

【グラフの読み取り 200 字】

昭和 56 年から平成 2 年まですべての家電製品の普及率が上昇している。中でも V T R は、昭和 58 年には数%と最下位であったが平成 2 年には 70% 近くと大型冷蔵庫について第 2 位である。大型冷蔵庫は 50 年代以降 60 ~ 70% の普及率を保ち常に 1 位にある。音声多重テレビと電子レンジは 58 年からの 7 年間で約 20 ポイントと高い普及率の上昇を示している。後発のワープロはわずか 2 年のデータながら 5 ポイントずつの高い伸びを見せている。

【課題 2 : 私たちの生活をどう変えてきたか】

太平洋戦争終結後、復興と自立の道を歩み始めた日本経済は、昭和 30 年からの約 20 年間、物価が安定し、G N P も年約 10% 前後の成長を続け未曾有の高度経済成長期を迎えた。

若年労働者層が都市に集中し、核家族化が進行し、人々は高い収入を得て、やがて国民の多くが中産階級意識を持ちはじめた。科学技術の発達は、車や家電製品をはじめとして次々に人々に大量のモノを提供し、「ゆたかな」暮らしをもたらした。

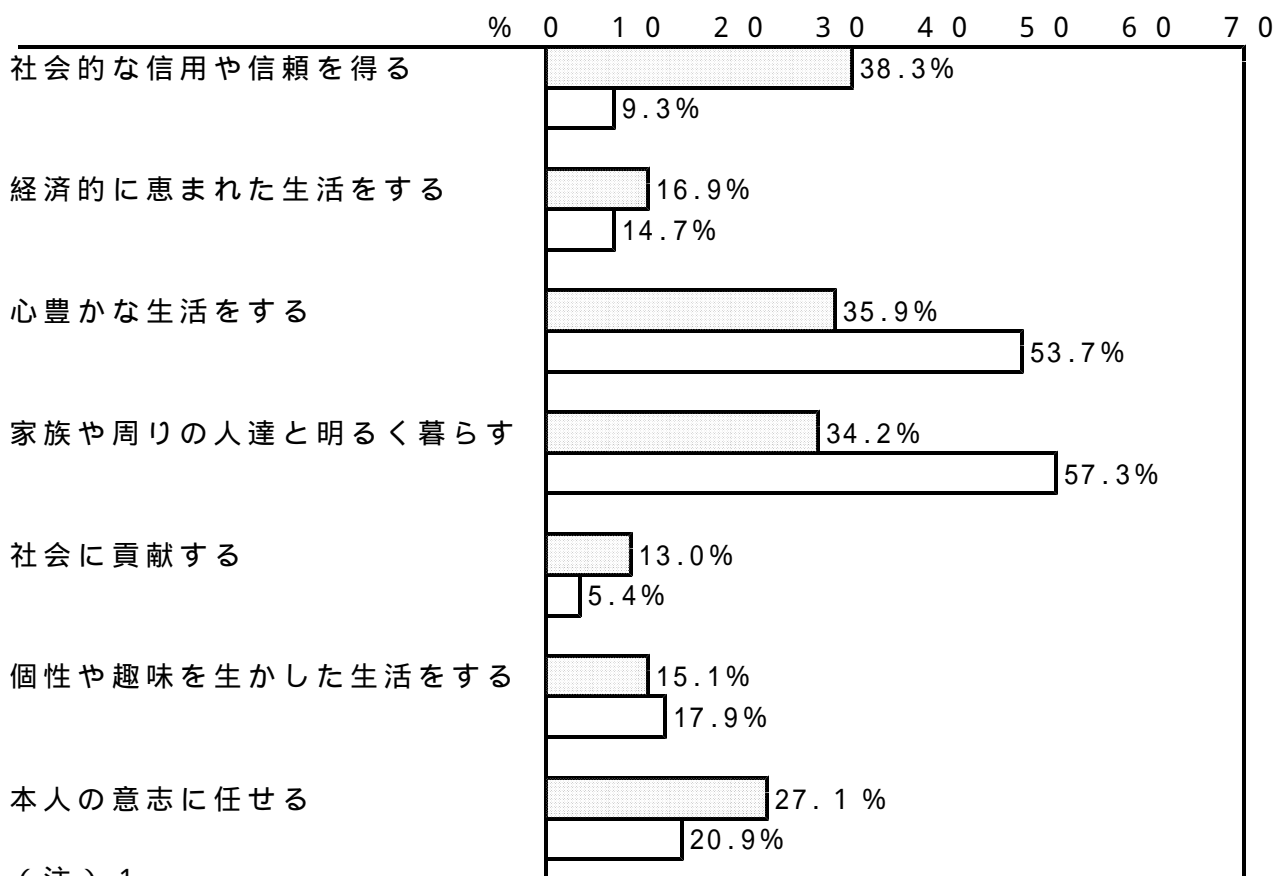
エコノミックアニマルと世界の人々から評された労働者は、余暇を V T R や音声多重テレビで楽しむようになった。また、かつては専業主婦であった既婚女性の多くが 1950 年代にはパートタイムで働きはじめ、男女雇用機会均等法の施行以来女性の社会進出は一気に加速している。全自動の洗濯機や電子レンジは家事の負担を軽減させる大きな役割を担い、大型冷蔵庫の登場は車を利用して郊外の大型量販店でまとめ買いができる点で人々に重宝され生活の効率化に寄与している。エアコンの普及とおパソコンの普及と電化製品の普及は私たちの生活を便利で快適なものにしてきた。

しかし反面、豊かさや便利さと引き替えにするように、高度経済成長期に日本には豊かにモノがあふれかえるようになったが、都市への人口の集中は地方の過疎化と高齢化をうみ、一次産業を停滞させて食物の自給率を著しく低下させた。また、自然の破壊は公害を招き、核家族化と女性の社会進出、少子化、さらにはコンピュータの普及はある面で、近年の犯罪の低年齢化の一因ともなっており、多くの問題点を今後に残していることもまた忘れてはならない。

『私たちの暮らしをどう変えてきたか』という設問からは、「少々的是ずれ」の感が否めない、といったところでは、洗濯一つをとっても、足踏み、手洗いから「二層式」へそして「全自動」へと本当に便利になりました。テレビの普及は、情報を早く詳しくわかりやすく知る上では欠かせないものになっていますしVTRと併せて、私たちの生活にもはや欠かせないものとなっています。冷暖房機器・冷蔵庫その他多くの電化製品の開発普及は私たちの暮らしを快適で健康的なものにしています。ワープロの普及が果たした役割も大きいですね。これらの製品がなかった時代と今日の対比を文章の中心に据え、後段はよりコンパクトにするのが筋、でしょうか。「どう変えてきたか」からするとそんな気がします。皆さんはどう思いますか。そう考えると、自分で書いた作品ですが、評価は60点が一杯ではないでしょうか。

2. 棒グラフを読む

次の図は総理府が実施した『親の意識に関する世論調査』の中の「あなたは、お子さんに、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。(2つ選択可)」という質問に対する回答結果を図にまとめたものです。あなたはこの図を見てどのように感じますか。この調査をふまえて、あなたの生き方に関する考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい。(東京都立医療技術短大)



(注) 1.

男の子の場合
 女の子の場合

2. 対象の男の子の場合は男の子を持つ親 1761人
 女の子の場合女の子を持つ親 1662人

(問) この調査をふまえて、あなたの生き方に関する考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい

図から読み取れる女の子を持つ親たちの顕著な特徴は、娘が家族や周りの人たちと仲良く暮らし、心豊かな生活を送ることを願っている項目が全体の50%強と非常に高い反面、社会的信用や社会への貢献を期待する割合が共にひと桁台と非常に低いことである。男の子の親の場合には、自分の息子に心豊かに明るく円満に暮らしてほしいと願う親が30数%いるものの、社会的信用や信頼を得るが38.3%と最も高く、本人の意志に任せるが27%いることも見逃せない。どうやら、男子は社会的信用を得てばりばり仕事をして社会に貢献する役割を期待され、女子は協調性を大切にして家族や周囲の人たちと仲良く心穏やかに暮らす生活を親は望んでいるようである。私は今、看護師になるという目標に向かって懸命に努力している。

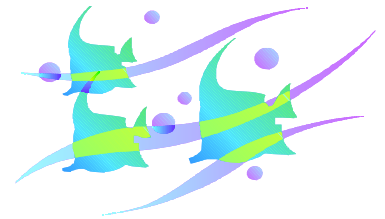
医学が進歩を続け、核家族化が進み、少子高齢社会が進行する中で今後ますます有能な看護師の存在が必要となるだろう。看護の仕事は社会に貢献する立派な仕事である。もちろん患者さんに対しても、そして、社会に対しても責任と信頼を負う仕事だ。20世紀は戦争と男性とモノの時代であったが、21世紀は共存と女性とこころの時代である。私は、結婚するかどうかは分からないけれども、看護師の仕事に誇りを持ち生涯の仕事として続けていくつもりだ。男女雇用機会均等法の施行以来様々な「男の職場」で女性を見かけるようになった。タクシーやトラックのドライバーもいる。道路工事の現場監督や大工、すし職人、政治家などだ。女性の社会進出は今後もさらに続いていくだろう。私ももちろん心豊かな生活を家族や周囲の人々と楽しく送りたいと願っているが、それは、社会的に自立して女性が生きることと決して相容れないことであるとは考えない。

看護師志望の18歳の女の子になったつもりで書いてみました。まずグラフの読み取りですが、今回は3つの視点があるように思いますが、いかがでしょう。みなさんも3つ挙げてみてください。

シンキング タイム！！

【西村が挙げた3つの視点】

- 男の子と女の子の比較対照の視点。
- 男の子、女の子別期待度の高さ順比較の視点。
- 男の子・女の子に共通している項目への視点。

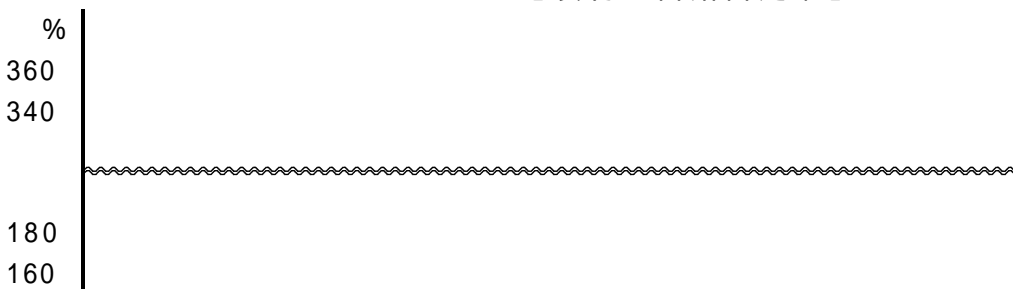


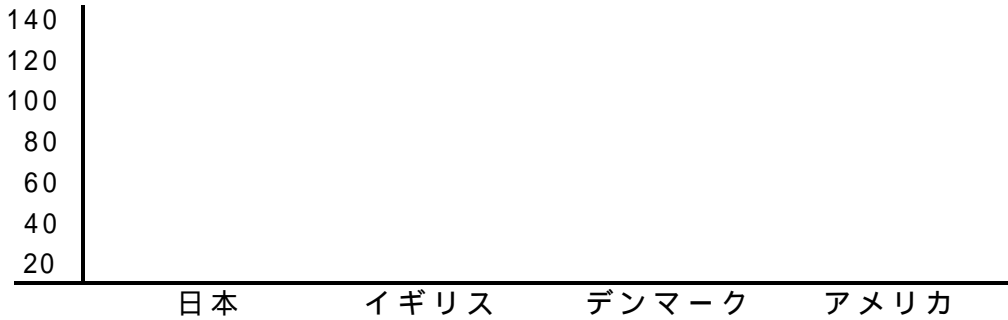
・ ・ を書き出しの7行でまとめてみました。そこからの読み取りが、8行目「どうやら」以降です。さて、この課題は、東京都立医療技術短大の入試問題です。つまり受験生はこれから、理学療法士や作業療法士・看護師として患者さんの命を預かる社会的にも責任が重い仕事に就くことを目標にしている人たちなのです。受験生が皆さんと同じ女性だとして、親が期待する生き方を実践するだけで、自立した一人の社会人として自分の能力を発揮していくことができるでしょうか。そのように考えると、8行目以降の文章の行方は書き手を問わず、必然でしょう。

棒グラフの読み取り 第2問

次の表から読み取れることを、100字と200字にそれぞれ要約して記せ。

【食物の自給自足率】





グラフから読み取れること

デンマークは6品目中4品目が自給を満たしており食物自給率が全体的に高い。中でも肉は350パーセント、乳製品が160パーセントと非常に高い。

アメリカは穀物の自給率が160パーセントと高く、他も魚が80%であるのを除いては100%に近い自給率である。またただ一国野菜の自給率が100パーセントを超えている。

すべての国で果物は自給を満たしていないがとりわけイギリスは20パーセント、デンマークは40パーセントと低い。また両国は野菜の自給率も約70%と低い。

日本は魚だけが自給率100%を満たしているが、主食である穀類が70パーセントと低く、ただ一国自給を満たしていない。

【200字要約】

デンマークの自給率は6品目中4品目、特に肉は350パーセント、乳製品は160パーセントと非常に高い。アメリカは魚の80パーセントを除いてほぼ自給状態にあり、穀物の160パーセントが突出している。全ての国において果物は自給を満たしていないが、イギリスとデンマークは特に低く、両国は野菜の自給率も併せて低い。日本は魚が自給を満たし、野菜もほぼ自給状態だが、主食である穀物が70パーセントと4カ国の中で唯一100パーセントを大きく割り込んでいる。

【100字要約】

デンマークは4品目が自給を満たし、肉は350パーセントと非常に高い。アメリカも魚の80%を除いてほぼ自給状態にある。日本は主食である穀物がただ一国自給を満たしていない。すべての国で果物は自給状態にない。

この要約で絶対に欠けてはいけない項目

日本は主食である穀物がただ一国自給を満たしていない

出題者も、受験生も日本に住んでいることを忘れてはいけません

* 出題者の視点は、「日本」にあるのです。

あら？第2問は、答えだけがあってグラフが描けていませんね。

Q. 要約を頼りに、グラフを書いてみてください。

どの程度書けるかな。

第3章【文章読み取り型小論文に挑戦する】

文章読み取り型の小論文には、2パターンあります。1つは、文章を読んで、その内容をふまえて自分の意見を書くタイプ。もう1つは、まず問1として文章を要約させ、問2で自分の意見を書くタイプです。近年は後者の方が多いように思います。私自身は筆者の主張がすっきり整理できるので後者のタイプの問題が好きですし、出題者の親切さを感じます。

文章を読んで、その内容をふまえて自分の意見を書くタイプでは、まず文頭で筆者の主張を要約します。「筆者は について、 という根拠をあげて であると述べている。(考えている)」です。要約は制限字数の20%~30%を目安にします。小論文の評価に対する配点の割合もほぼ同様に20点~30点が配当されています。筆者の主張が正確に読み取れなければ、それに対する意見は述べられないわけですから、志望校が課題文を読ませる場合には特に読解力、要約力をつけておくことが必要です。

課題が筆者の主張を読ませた上で、「YESかNOかを求める場合」には要約の後道が2つに分かれます。

筆者の主張に賛同する場合は「確かに私も筆者が述べているように~」と書き始め、自分が持っている筆者とは別の具体的な根拠を提示し、文章を展開して結論を導きます。注意が必要なのは、筆者の主張のなぞり書きにならないことです。

筆者の主張への反論型の場合には、冒頭の要約に続き「しかし私は」と入ります。こちらでも具体的で客観的な根拠を示しながら自分の主張を展開します。

賛同型・反論型に善悪はありません。ここが作文と違うところです。問題はいかに筋道立てて、自分の説が述べられるかにかかっています。私は生徒さんの小論文を指導するときに、「YESかNOか型の小論文」の場合には、2本とも書きなさいといひます。自分の意見と異なる立場に立って論を展開することは非常に難しいことですが、思考力・想像力そして、広い視点で物事をとらえるすばらしいトレーニングになります。

ところで、YESかNOか型小論文の場合、どちらで書くべきかですが、かつて予備校の先生に質問したところ明快に「YESだ」と仰いました。「大学の先生や一流の評論家の書いた文章を否定するだけの根拠を生徒は持ちうるのでしょうか」というのがその理由でした。

さて、小論文というを与えられた文章(主張)に対して、YESかNOかを書くものだと勘違いをしている人がいます。大半の小論文は、YESかNOかを求めるのではなく、文章の内容をふまえて問題点を洗い出し、「今後どうしていくべきか」を書かせる「について書け」です。「たしかに・しかし」という展開の思い込みには注意が必要です。

次に、新聞記事を使つての出題です。

【経済学部課題：新聞記事をもとに、1000字程度のレポートを作成しなさい。またレポートに適切な題を付けなさい】

「日本経済新聞」2005.2.2朝刊の記事を使つて。

日本経済新聞の2月2日付け朝刊九州経済版によると博多税関署は1日、同支署管内での2004年の貿易概況を次のようにまとめた。輸出は前年比30.4%増の1兆120億円となり初めて1兆円の台を突破した。輸出を品目別にみると、電気機器が前年より38.9%増の4,526億円と大幅に伸び特に半導体など電子部品が前年比5倍の1,444億円に達した。一般機械は28%増の1,551億円に。自動車部品も好調だったという。一方、輸入高も11.4%増加し55,083億円を記録し、魚介類、化学製品、木製品に大きな伸びがみられた。博多税関署管内の活発な輸出入の値からは不況からの脱出の一端が見えてきたように思われるが、日本経済のより一層の活性

化や流通を考える上で今後福岡の果たす役割とはいかなるものであろうか。

日本の産業界の変遷をみると、一次産業は高度経済成長期の労働人口の都市への集中と地方都市における若年者の流失による過疎化により農業、林業、水産業は衰退し日本の食料自給率は「米」を除いてその大半を海外からの輸入に頼っているの現状はある。海外からの安価な水産物、果物、肉類の流通は国内の生産者の生活維持を脅かし、現在も一次産業従事者は減じているが、輸入食品の安全性や将来における安定した輸入の継続に対する不安はぬぐい得ず、今後我が国が抱える大きな課題となっている。二次産業については朝鮮戦争前後までは鉄など工業製品の原材料を輸入し国内の石炭を使って製品を製造していたが、エネルギーが石炭から海外の重油に変わる1975年あたりから、精密機器などの部品や高い技術力を海外に輸出労働力の安価な中国や東南アジアの国々で製品化し逆輸入するケースが増加するようになった。現在も多くの国民が愛用している「ユニクロの製品」等はその好例である。九州は、全域を海に囲まれ豊かな自然と温暖な気候に恵まれており、一次産業の再構築をはかるのに最適の土地である。また、都市に集中していた企業の誘致にも適している。九州の経済の拠点としての福岡は、二十一世紀がアジアの時代と呼ばれるなかで、世界の1/3の人口と広大な大地や資源を誇る中国をはじめ東南アジアなど今後ますます交易が活発化するであろう。そして、今後一層アジアの物流の拠点としての重要な役割を担うことが予想される。

文頭の9行が日本経済新聞による、博多税関署まとめの2004年の貿易概況です。この年初めて輸出が1兆円の台を突破したというのがトップニュースです。この事実を受けて、日本経済の回復における福岡の位置づけについて考察を始めます。

まず、戦後の日本の産業界の変遷を紐解き、現状を分析します。そして21世紀の世界経済が東南アジア、とりわけ中国であると断じ、その拠点として福岡が重要な役割を担うだろうという筋立てです。現在中日間の貿易高は、既に中米・中欧を上回るまでに膨らんでいます。また、中国のGNPは2005.4期において前年比9%増であるとの発表がありました。中国では対日批判が高まり緊張関係にある両国ですが、相互理解を一層深めて良きパートナーとして共存の道を歩むことが望まれます。年度・%・金額・国名などをグラフ型小論の読み取りに準じて記述しています。

題は「博多を支える21世紀のアジア経済」としてみました。

第4章【テーマ小論に挑戦する】

テーマ小論は、作文と同じく「テーマ」が与えられただけの小論文です。グラフや文章など書く手がかりとなる資料が何もありませんから、基本的には第二章の「作文の書き方」で述べたようにテーマから主題を決め、それを支える根拠となる客観的で具体的な体験や見聞を準備しなければなりません。

どの角度からテーマに迫るか、どの角度でテーマを切るかですべてが決まります。私は指導している生徒さんの受験日が迫ってくるとよく「連想ゲーム」をします。口頭で私がテーマを出します。そして、「主題は？」と尋ねる。ついで、「根拠とする具体的材料は？」と問いかける。これなら10分もあれば、3問はできます。主題と根拠とする具体的材料をあげることができれば、後は書くだけですから、これでも十分な勉強になるんです。問答の中で「根拠とする具体的材料」が怪しい場合は「もう少し具体的に言ってごらん」と言います。テーマ小論は多くの場合受験する学部・専攻系統で一定の傾向が見られる場合が多いので、事前に過去問を調べて実際に書き、添削指導を受けておく必要があります。職員室にも「推薦入試小論文テーマ一覧」等というのがありますから、いつでもきてコピーしてください。

また、各専門分野の基礎知識を頭に入れておくことも重要です。本屋さんに行くとキーワードをコンパクトに解説した冊子が市販されています。新聞に目を通しておくことも大

切です。時事もよく出題されます。入試問題はおおむね6月から9月にかけて作問されることが多いので、このころに起こった事件や事故、その年のキーワードになるようなニュースには特に注意して下さい。新聞は毎日最低30分はじっくり読む習慣をつけて下さいね。「論壇」を要約したり、「論壇」の記事の内容に対する意見文を書くことをおすすめします。どの程度書けば良いかですが、3年生になれば1日1本は書いて欲しいですね。

ところで、私が800字でテーマを出し、生徒さんが翌日小論文を持ってきたときに、「何分で書きましたか？」と尋ねると「3時間」などと答えが返ってくるのがしばしばあります。本番の試験では、長いところで180分。普通は60分～90分です。小論文・作文の難しさに時間との戦いがあります。限られた時間の中でいかに仕上げるかが勝負です。練習の時にも常に時計をおいて書く習慣をつけてください。時間内に書けない場合は、制限時間がきたら、「まだここまで」と印を付けます。そして最後まで書いて要した時間を記録します。書き慣れると筆は速くなりますので心配いりません。ねばり強く書き続けられれば、1ヶ月(30本)で「落ちない」小論文が、3ヶ月(90本)で点の稼げる小論文が書けるように必ずなります。なお、用紙は縦書き・横書き・原稿用紙・西洋紙など本番と同じ書式、大きさのモノを使って下さい。ずっと縦書きで練習していた生徒が、試験当日横書きの用紙を渡されいつもの習慣で縦書きしてしまった。ところが、途中で横書きに気づいて消しゴムで消しながら書き直している途中で時間切れになって不合格になったなんてこともありました。要注意！

テーマ小論文「真の男女共同参画社会の実現に向けて」

2000字です。

真の男女共同参画社会の実現に向けての考察

第2次世界大戦の終結を迎えるまでの日本では、女性は長年にわたって家父長制の下で社会的・文化的・経済的に、男性中心の社会の中で社会慣習により男性に劣る者として低く位置づけられ、その偏見と固定観念により、「男は社会で仕事をし、女は家を守り家事や育児に専念する」という性差による社会的役割を担ってきました。終戦後は、民主主義思想の流入により「男女平等」・「人権の尊重」という思想が広まりはしたものの特に文化の側面においては、現代もなお男女間の差別は解消されたとは言い難い状況にあります。たとえば、漢字では「嫁言葉では「内助の功」や「夫唱婦随」、「男勝り」などが日常生活に根付いているうえ、21世紀を生きる女性自身が、未婚の女性をさして「負け犬」と呼ぶ現実さえあります。また、相撲の土俵に女性を上げないとか、トンネル工事内の現場には女性を入れないなどという事からも、脈々と引き継がれてきた日本の「女卑文化」の一端をうかがい知ることができます。さらに多くの母親は現在も、女子の養育にあたり、しつけとして、おしとやかな「女性らしい」言葉使いや動作を求め、服装や髪型遊び、また進路選択においても女子は男子に比べて制約が多いという現実があります。

終戦後、高度経済成長期に入った日本の産業構造は大きな転換期を迎え、社会構造に大きな変化をもたらしました。すなわち労働力の確保という観点から、働き手としての女性の需要が生まれたのです。多くの男女を問わず若者は、都市に進出し日本の経済発展を支える担い手となりました。また、主婦の多くが副業として、パートで働き出し女性の専業主婦化は後退を始めました。こうして、女性が労働者として社会に進出しましたが日本国憲法に男女平等が規定されているにもかかわらず、その労働に対する評価は男性に比べてきわめて不安定で低く、職種は限定され、職場内における女性の参画の場や発言権にも大きな制約が加えられているのが実情でした。

このような日本の情勢の中で、1975年を国際女性年とする第1回世界女性会議が開催され、85年までの10年を「国連女性の10年」として、女性差別の撤廃と男女平等の運動が始まりました。また、真の「ジェンダーフリー」を求める世界の声が高ま

る中で、日本でも1985年に勤労婦人福祉法をツールとした、女性にとっては画期的ともいえる「男女雇用機会均等法」が実施され、女性の雇用分野における機会及び待遇の確保のための法的整備と、労働基準法の改正が具体的になされ職域は大きく広がりました。さらに、経済的発展に女性を組み込むうえで、現実には女性差別が継続しているという認識を背景に、1996年にはより具体的で一段と法的拘束力の強い「男女共同参画社会基本法」が施行され、今後更に歴史的、文化的、経済的に劣位に立たされてきた女性の生き方が大きく変わっていくことが期待されています。

私は、女性が、一人の自立した人間として社会に進出し、性差の区別をうけることなく活躍できる社会が到来することは当然のことであると思います。そういう意味で「男女共同参画社会基本法」の施行は大歓迎しています。しかし、私はこの法律を真の意味で社会や私たちの暮らしを豊かにする法とするためには、社会や個人が家事や育児といった「シャドーワーク」への正当な評価をしっかりと行っていく必要があると考えています。戦後の日本では、産業社会の変化に伴い、人口の都市への一極化がみられ、地方の過疎化が急速に進んでいきました。

また、核家族化の進行と平行して、女性の社会進出は少子化を加速させました。しかし今、団塊の世代が社会の第一線を退いた後の日本の労働力の不足はたいへん深刻な問題として懸念されています。また、女性の社会進出や少子化による家庭形態の変化、また偏差値重視の学校教育の弊害は、こどもたちのコミュニケーション能力や想像力の低下を招き子供たちからたくましく生きる力を失わせていきました。そして、ひきこもりや犯罪 自殺といった重大な問題を引き起こすに至りました。私は国や社会が、金やモノに換算できない家事や出産や育児と言った極めて重要な仕事への理解を一層深め、正しい評価と支援を具体的な施策として示す必要があると考えています。保育所をたてて働く女性を支援するのと同じように、子供を産み、育て、家事に従事する女性の存在をもっと大切にすることが必要であると考えています。そうすることによって初めて真の意味での「男女共同参画社会」は実現し、現在の日本社会が抱える多くの深刻な問題を解決する糸口が見いだせるものと確信しています。

まず、「男女共同参画事業」とはなにか、を知らない手がつけられませんね。はっきりと分からない人は、今すぐインターネットで調べなさい。「ジェンダー」、「シャドーワーク」の意味は分かりますか。現代のキーワードですよ。知らない生徒はすぐに調べなさい。知らないことは恥ずかしいことではありません。しかし、知ろうと努めない生き方をすることは、恥ずかしいことです。

さて、戦前から戦後、そして現在に至る女性の社会的地位や生き方とその社会背景をふまえて問題点を浮き彫りにしようとした一文です。私は2000字で書いてみましたが、みなさん、800字、400字に要約してみてください。勉強になります。この文章は同志社大学に提出したのですが、書き上げるまでにみっちり20日ほどかかっています。事前に提出すべき文章のある生徒は、一月くらい前から準備に入ってください。

スポーツの意義と課題

1. はじめに

日本人の平均寿命は男性が78歳、女性が85歳と今や世界でトップレベルにあり、いかにかけがえのない人生を心身共に健康で豊かに過ごさうかということが真剣に問われる時代を迎えている。私達がそうした質の高い生活について考察する時、スポーツ

の人生に果たす役割は計り知れず大きい。このレポートでは、競技スポーツと生涯スポーツの両面からその意義と課題を整理してみたい。

2. 競技スポーツの意義と課題

競技スポーツとは、競技ルールに従ってスポーツ技術や記録を競い合い勝敗を決するスポーツである。オリンピックやワールドカップ、各種のプロのゲーム、学生や生徒児童が参加する大会がその実力の発揮の場である。勝利に向けて競技者は自分自身やチームの競技レベルの向上のために、身体能力の限界にいたる厳しいトレーニングに挑む。競技スポーツは、自分で問題点を見つけ解決する能力や困難を克服しようとする強い心を持った人間を育てる。また、私は小学校以来バスケットボール競技に携わってきたが、集団スポーツは連帯意識や思いやり、協調性などを身につける契機も与えてくれる。さらに、観客に夢や感動、生きる勇気を与えることができる点も大きな魅力の一つである。競技スポーツが抱える課題として、勝つためには手段を選ばないドーピング問題や過剰なトレーニングが引き起こす身体の故障、またジュニア世代を科学的にトレーニングをするための優秀なコーチや施設設備の不足、さらには金がかかりすぎることを挙げることができる。

3. 生涯スポーツの意義と課題

我が国は、2050年には日本人の3人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎える。健康の基本は栄養・運動・休養であるが、スポーツや運動を生涯の友として楽しむことは、生活習慣病の予防や健康の維持増進、ストレスの発散だけでなく生活に潤いを与える点でも意義深い。またスポーツを介して生まれる世代や地域を超えた交流からは連帯感やコミュニケーション能力の向上も期待出来る。なお課題として、学校卒業後はスポーツや運動から離れる人が多いと一般にいられているが、学校教育の中で人生におけるスポーツの魅力や意義を徹底して啓蒙しておく必要がある。また、地方においてはスポーツに親しむ施設や年齢や身体能力に見合った指導のできるトレーナーや指導者が不足している点も重要な課題である。

4. おわりに

いきいきとした長寿社会を心身共に健全に生き抜く上で、スポーツに携わる意義は大きい。「人間の持つ機能は使わなければ萎縮し、使いすぎると壊れ、適度に使えば発達する」といわれる。スポーツの楽しさや爽快さを、いつでも、どこでも、いつまでも、だれもが体験できる環境作りが今後一層必要となる。

第5章【志望動機】

就職の応募書類の一つに履歴書がありますが、その中に高校生の場合B5の用紙でおおよそ7行程度の志望動機欄があります。進学の場合も推薦入試やAO入試に臨む多くの場合に、志望理由書の提出を求められます。第4章では志望理由書の書きかたについて述べます。

就職、進学を問わず基本的には変わりません。端的に言う『御社・貴学が求める私です』と書けばよいのです。そのためには当然、普段から自分自身のことをしっかり見つけ、相手のことをよく調べておくことが大切です。就職だと求人票や会社パンフレットを、進学だと学校案内やインターネットで情報を得て、相手がどういう人材を求めているかを熟知しておく必要があります。志望理由書の基本は「あなた（先方企業や上級校）が求める私です」と書くことです

1. 『就職編』

良い志望動機は、読んだだけで「企業名・職種・応募者の人柄や意欲」が読み取れる文章ということが出来ます。

A 子さんが書いた志望動機を読んでください

私は昔から人の役に立てる仕事に就きたいと考えておりました。高校生活では部活動に入って毎日がんばってきました。趣味は読書で推理小説が好きです。御社は大きな会社ですし、とても有名で将来性があると伺っております。就職の担当の先生や両親からもいい会社だと勧められています。内定を戴いて御社の一員になれましたならば私もとてもうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

どうですか？この志望動機を読んで、A 子さんが受験する企業は、 どのような会社で、職種は何で、 A 子さんはどのような人物で、 どのような覚悟や意欲を持って社会人になるうとしているか、分かりますか。答えは、いずれもNOですね。

この志望動機では、書類審査で高い評価を受けることは難しいでしょう。

次に、B 子さんの志望動機を見てみましょう

御社はカステラを始め、三笠山、レモンケーキ、合わせ最中と豊富な種類の和洋菓子の老舗として日本中のお菓子好きの方々に広く利用されておられます。私は高校3年間皆勤を続けワープロ検定1級を取得するなど、健康とねばり強く努力を続けることには自信があります。自分の長所である笑顔とまごころをもってお客様対応できる販売員として力を尽くしたく志望致しました。

B 子さんが受験する企業は、カステラをはじめとする和洋菓子の老舗で全国規模であることが分かりますね。第一感、文明堂さんか福砂屋さんを連想します。職種は販売。彼女は健康とねばり強さが長所で、高校生活も皆勤、ワープロは1級を取得している優秀な人物のようです。笑顔とまごころをモットーにがんばりたいと意欲も十分です。こういう志願者なら採用したくなりますね。

C 子さんの志望動機

私の父は現在体調を崩し病気と闘っております。私はその姿を見るにつけ、将来は病気やけがで苦しんでいる人のお世話ができる仕事に就きたいと考えてきました。私の長所は協調性があるところと、何事にも誠実に取り組むことができることです。貴院では患者さんたちに信頼され、親しまれる看護助手として精一杯働かせて戴きたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

C 子さんは看護助手を志しているんですね。お父様のご病気がきっかけのようで、お父様のように病気で苦しんでいる人のお役に立ちたいと考えたんですね。動機がはっきりしています。「協調性・誠実さ・信頼・親しみ」は特に看護や介護には必要不可欠な適性です。C 子さんは病院が求める人材のタイプに相当するのではないのでしょうか。

D 子さんの志望動機

御社は長崎の人々から「お諏訪さん」と親しまれ、お宮日には全国各地から多くの観光客をお迎えになって賑わいます。私は以前から巫女さんの装束に憧れを持っており、

求人を受賞してすぐに応募の希望を出しました。3年間、茶道部で身につけた礼儀作法と穏やかな性格を生かし清楚で爽やかな巫女になりたく志望致しました。

D子さんは、諏訪神社の巫女さん志望なんですね。以前から巫女さんにはあこがれを持っていましたようです。茶道部に所属していたのなら、礼儀作法もバッチリでしょう。茶髪でヤンキーな巫女さんより、「清楚で爽やかな」巫女さんのほうが神社には向いていますね。話はそれますが、諏訪神社の巫女さんの定年は27歳で、結婚すると退職する習わしだそうです。

E子さんの志望動機

御社ホテルは日本で最初の国立公園雲仙の温泉街の中心にあって、温泉やプールを備え、会食もできるくつろぎの場として地域の皆様をはじめ、観光客の方々に広く利用されておられます。私の長所は、明るく行動力があり誰にでも親切に接することができることです。このたび求人をいただき、お客様に気持ちよく御社施設を利用させていただき、疲れを癒し楽しい一時を過ごしていただけるスタッフとして力を尽くしたく志望いたしました。

E子さんは雲仙のホテル志望のようです。ホテルにはプールがあり、会食もできるそうです。相手企業のことをよく調べていますね。明るく行動力があり誰にでも親切に接することができるE子さんのような従業員がいらっしゃるホテルに行けば疲れもとれて癒されそうです。E子さんには立派なホテルマンになってもらいたいものです。

F子さんの志望動機

御社の製品は日本のみならず、広く世界の国々で大きな信頼を受け愛されておられます。御社の車種の中での私のお気に入り は、かわいい「e kワゴン」で街で走っている姿を見ると心が和む気がします。私は高校3年間皆勤を通し、多くの資格の取得に努め簿記や電卓の1級を取得し、健康と事務処理の能力の確かさには誰にも負けない自信があります。龍踊り部での活動を通しては協調性や思いやりの心を身につけました。御社に是非入社し、自分の長所を生かしてお客様に信頼されるスタッフとして活躍したく志望致しました。

「e kワゴン」からF子さんの受験先が三菱モーターズであることが読み取れます。このように具体的な製品名を入れ込むと文章に厚みが生まれます。F子さんは3年間皆勤の上に簿記や電卓の検定1級を取得するなどがんばりやさんですね。ここも、単に「多くの検定に挑戦し高い資格を得ました」とするよりも具体的な検定名や取得級を書くのがよいのです。

健康・確かな事務能力・部活動で培った協調性や思いやりのころをもってきてお客様に愛されるスタッフになることでしょう。よくまとまった志望動機となっています。

G子さんの志望動機

美しくありたいという気持ちは誰もが持っています。私は幼い頃から友達の髪を切ったり結んだりするなど、人を美しくすることに喜びを感じ美容師になることを目標にしてきました。先日御社を拝見させていただき、すばらしい施設設備とお客様のニーズにスタッフの皆様が一丸となって応えようと努められている姿に感動いたしました。私は話すことが好きなので接客には自信があります。自分の長所であるねばり強さを生かして

お客様の要望に気持ちよく応えられる美容師になりたく志望いたしました。

G子さんは美容師志望です。就職選考に先立って、職場訪問をしたんですね。職場を自分の目で見て、スタッフの方々の働きぶりを肌で感じ志望を固めたとあります。これは動機の強い裏付けとなります。美容師を志した経緯や将来の展望もしっかりしています。

みなさんもう気がついていると思いますが、書類審査で合格が出るであろうB子さんからG子さんの志望動機には一つのパターンがあります。共通点は、6人ともに志望動機の内容に、次のア～ウの3点を盛り込んでいるところです。

- ア．相手の企業や職種について述べている
- イ．職種の適性に合う自分の特技や長所をアピールしている
- ウ．職場でいかに活躍したいかという覚悟を述べている

先にも述べましたが、これはあくまで「一つのパターン」であり、このように書かなければならないというものではありません。正直に言いますと、私の書いたものはワンパターンで、温かい血肉の通った文章ではありません。落ちはないが、おもしろくもおかしくもない代物でまずは60点というのが本当です。ですから、どう書いてよいのか手も足も出ない人はこれを参考にしながら、貴女にしか書けない一文を盛り込んでください。このパターンの中に自分にしか書けない表現や内容を加えていけば、より個性的なものに仕上がっていくはずですよ。

2. 『進学編』

進学の場合の「志望理由書」は、400字～800字（200字の倍数）がほとんどです。就職の場合と同じく、進学の理由書を書く場合にもパターンに沿うと書きやすくなります。

文章の核心は 志望学部・学科で何を学びたいと考えているか、です。具体的な内容と共に、カリキュラム表を調べて、___学とか、___講座で、と書くと内容に厚みがでます。また、なぜその学校なのかも入れるとよりよいですね。たとえば、外国語の勉強がしたい。外国語の勉強は、A大学でもB大学でもC大学でもできる。なぜ、A大学なのか、ということ。インターネットやパンフレットなどを取り寄せて、それぞれの学校の特徴をつかみます。そして、A大学にしかない特色を述べるのです。 建学の精神、オープンキャンパスでの印象や分かったこと、施設や設備、教授陣、学習内容や特別な講座の設置などをあげるといいと思います。

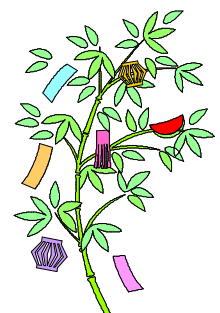
何を学びたいかを支えるのが、 どういう体験や、現実、事実に関心を持ってその学部・学科への志望を固めたかという「志望のきっかけ」です。これは具体的に書きます。 体験談や見聞きしてよく知っている内容を使うと説得力がでます。 高校入学以前・高校入学後の志望の深まりと分けて書くのも良いでしょう。文章の長さの調節もここでいきます。

さらに、 上級校での生活や勉学を通して得たことを将来どのように活かしたいかを必ず書き入れます。

大まかにいうと以上3点を押さえておくと良いと思います。

- ・ ・ を書く順序、構成ですが、
- ・ ・ もよし、
- ・ ・ もよし、
- ・ ・ でもいいですね。

いずれでも書くことが可能です。優劣はありません。内容次第で、何より貴女が一番書



言っても保護者に信頼され、こども達に慕われる保育士になるために「児童心理学」や「ピアノ演習などを中心にしっかりと学んで、専門的な知識や技術を身につけることです。二番目には、児童英語の指導者として活躍できるよう英語の習熟に力を入れ、英語検定でステップの二級に合格できるよう努めます。そして、できれば在学中に英語文化圏の国に赴いて保育園でのボランティア活動に参加したいと思います。最後に、読書に親しんだり多くの友人と保育について語り合ったりして人間性を高め教養を豊かにして自立した一人の女性として社会で活躍できる資質を養い、二年後には立派な保育士として保育現場で活躍できるよう充実した短大生活を送りたいと考えています。

・ ・ 型ですね。書き出しで、スッと志望理由を述べました。新鮮な印象ですね。志望の理由は二つです。保育士の資格が取れることと英語の勉強ができることです。

文章の始まりは、自身の幼い頃の保育園での体験と、漠然と「ゆかり先生」になりたかった小学校時代の回想です。保育士への志望が固まったのは中学高校で体験したインターンシップ。保育士の仕事を多角的に見ることができるようになった筆者の視点が読み取れます。

次に志望校選択の二つ目の理由である英語の学習にまつわる話題へと文章は進みます。イギリス語学研修での体験を紹介しながら、英語をどのように園児達に習得させていこうと考えているかを「英語で読み聞かせる絵本」という手段を具体的に示しながら紹介しています。非常に巧みで具体性のある文章の展開であるといえます。

最後に入学後の抱負が具体的に三つ述べられます。ここは頭の二つでも十分ですね。複数述べたい事柄があるときにはBさんのように、「一つ目には」・「二番目には」・「最後に」という構成は読みやすく、書きやすい。「まず、次に、最後に」も同様です。

全体を通して具体的記述が多いので大変わかりやすく、読んでいて「なるほど」と納得させられる作品となりました。内容の量的バランスもいいですね。合格です。

次に、障害児教育を目指すBさんの志望理由書です

障害児の教育に私が初めて関心を持ったのは、特殊学級の下級生達と交流する機会を持った小学校6年生の時でした。みんなでパズル遊びをしたのですが、この時人の持つ能力は人それぞれであり、それは、その人が人間として優秀かどうかということとは全く別のことなのだとことを学びました。彼らの理解力や作業をする能力は確かに劣っていますが、自分の感情を素直に表現したり、限りないやさしさを持って人と接することができるということを身をもって知ったからです。県立養護学校の生徒達との交流を通して、その思いは強くなるばかりです。本校の校訓である「共生」の具現化は、私にとってはまず彼らとの間でなされなければならないものです。障害児の社会進出を将来今よりも一層しやすくするためにも、健常者の偏見や差別を除くために互いが交流する機会を多く持ち相互の理解に努める必要があると思います。私は貴学において、オープンキャンパス時にある教授がおっしゃっていた様に、充実した体験学習を通して、ノーマライゼーションの考えに基づき障害児と健常児がともに育み合える環境作りをするための勉強を中心にしたいと考えています。そして、彼らと正面から向き合っていける教員となるために、豊かな感受性や体力、包容力、忍耐力を養っていきたいと思います。

・ ・ 型ですね。小学校時代の体験や県立養護学校の生徒達との交流を通してFさんは障害者への理解を深め、その教育に当たる決意を固めます。そしてBさんの視点は社会の偏見や差別にむけられ、「共生」と「ノーマライゼーション」の考えに基づいた教育環境作りへと発展していきます。最後に障害児教育に携わるものの適性にふれて動機は締めくくられていますが、「共生の具現化は私にとってはまず彼らとの間でなされなければ

ならないものです。」のくだりはちょっとしんどいですね。文章の流れが強引すぎます。また、「障害児と健常児がともに育み合える環境作りをするための勉強」という箇所も、なるほどそれ自体は大切なことではあるけれども、養護学級の教諭が「環境作りをする」わけではなく的はずれと言わざるを得ません。熱意が強いがうえに筆が走ってしまったというところ。『筆の勢いでつい書きすぎる』というのはよくあることなので注意が必要です。むしろ、より具体的に、どのような養護教諭に、どのようにしてなりたいのか、深く切り込んでほしかったですね。65点、ですか。いや、それでも、甘いかな。

教育学部の初等教育科を目指すCさんの志望動機です。

文部科学省が「ゆとり」教育を掲げ、「生きる力」を育む教育を推進して久しいですが、小学生から高校生に至るまで、いじめ、引きこもり、自殺、殺人と青少年を巡る問題は深刻化の一途をたどるばかりです。このように、集団や社会に適応できない子供達の「総合的な人間力」を培うためには、確かな学力を定着させることは言うまでもなく、コミュニケーション能力や探求心、想像力などを家庭や地域社会と連携しながら伸ばすことを今の学校が最重要課題として取り上げるべきである、と私は考えています。私は特別進学コースに籍を置いて学業に専念する傍ら、地元の郷土芸能伝承集団に所属し、浮立の横笛を小学生の頃から今日まで担当してきました。またその一方で、イギリスでの文化語学研修やJICAの国際協力プログラム、長崎の平和運動の一環である高校生一万人署名活動にも主体的に参加してきました。浮立をとおしては年長の方々から幼児に至るまで多くの人たちとの出会いを経験し、年齢層によりさまざまな生き方や考え方があることを知りました。また、高校入学後の諸活動からは、平和の尊さや国際的な視野を広げることができただけでなく、民族の違いを超えて多様な価値観を持つもの同士が理解を深める努力をする中でコミュニケーション能力を高めることもできました。人間の好奇心や知的好奇心を喚起するには達成感や成功体験の積み重ねが大切だと考えます。子供達は無限の可能性を持っています。私は自分の体験を活かして、子供達に伝統文化の継承や長崎に息づいた平和意識を高める活動を始め、さまざまな活動に積極的に参加する機会を提供したいと考えています。そして、多くの人々とのふれあいや体験の中で、社会性やコミュニケーション能力を身につけ自分自身を大切にし他人を思いやることができるたくましい人間力を身につけた子供達を育てるサポートのできる小学校の教員になりたいと考え志望致しました。

高校生としては十二分な確かな筆力です。その秘密は、豊かな体験にあります。充実した3年間の活動歴の中でCさんの人間性が育まれたものと思われれます。まさに「文は人なり」ですね。構成は？

経済学部を志望したDさんの志望理由書。

グローバル経済化が進む中であって、先の見えない不況下のもと我が国の中小企業や零細企業、あるいは自営業者は困惑の極みに直面しているといっても過言ではないでしょう。私の父は、戸石近海で漁業をして生計を立てていますが、バブルがはじける前までは月収も60万円を超える高収入で、月に1週間も海に出れば豊かな暮らしができていたそうです。現在も、くんちなどの行事や年末年始、盆などは魚の価格が上がるのですが、普段は中国や韓国などの輸入物に押されて収入は最高時に比べると半減してしまい、燃料や網、ロープ代などの経費を引くとほとんど赤字の状態だそうです。父が言うには、魚が多く捕れれば捕れたで値が崩れていわゆる豊作貧乏となり、漁獲が少なければ少ないで輸入物が大量に市場に入ってくるためやはり安値が付いてしまうのだそうです。日本という資源の少ない国が安定した自給率を保ちながら、いかにすれば消費者

に安価で高品質な商品を提供できるのか、そして生産者や労働者の生活を守っていけるのか、私はこのモノとお金の流れのシステムについて大変興味があり、貴学では「マーケティング論」を中心に専門的に勉強したいと考えています。また、私は高校生になってから「龍踊り部」に所属し、「長崎ゆめ総体」では演舞を披露しました。その縁もあって中国には親しいものを感じています。中国は、広大な大地と豊かな資源、多くの人口を有する国として現在最も注目をあびている国です。入学後は、国際語として必須の英語はもちろん、言語コミュニケーションでは中国語を選択して将来国際人としてはばたくことのできる教養を身につけたいと考えています。また責任ある社会人としての自覚を持ち仕事と勉学の両立を果たしながら、実社会で豊かな経験を積まれている学友の皆さんから机上では学べない生きた知識や知恵を数多く学んでいきたいと思っています。

・ ・ 型の構成ですね。漁業を営んでおられるお父さんのお話から不況下における中小・自営業者の困窮ぶりを述べ、経済学の流通分野に興味関心を持った過程がスムーズに語られています。さらに高校生活で龍踊り部に所属していたことを述べ、自身のアピールをしながら21世紀のキーワードであるアジアの経済、中でも中国への関心の高さへと文章を展開していく過程は無駄がなく絶妙です。体験談を豊富に使っているので説得力があり、点数の稼げる志望理由書だと思います。

志望理由書の内容は、体験談の他に資料集やインターネットからの情報、テレビや新聞のニュースなどを用いますが、書くからには記述内容を十二分に理解して上辺だけの言葉遊びにならないようにすることが大切です。面接の折には志望理由書から多くの質問が出されます。本当に受験者が理由書の内容を熟知しているのかを問うために、つっこんだ質問がなされますので答えに窮することがないように事前に十分な面接練習と知識の確認をしておく必要があります。

言語療法士を目指すEさんの志望理由書

私は以前から医療関係の仕事に就いて、病気や事故で苦しんでいる方々のお役に立てる仕事に就きたいと考えていました。真剣に進路を考えるようになった頃「言語療法士」の存在を知り事故や病気で言葉を失われた方々の言語機能の回復のお手伝いをしたいと考えるようになりました。以心伝心という言葉がありますが、やはり「ことば」は人が自分の意志や感情を表現する最大の手段です。私は貴学において言語療法士として必要な知識や技術を学び、実習を重ねて、一人でも多くの患者さんに言葉を取り戻していただきたく志望いたしました。

『以心伝心という言葉がありますが、やはり「ことば」は人が自分の意志や感情を表現する最大の手段です。』が効いていますね。

この長さという制約があるのであれば、合格でしょう。これで270字程度ですが、仮に、600字や800字でという場合に筆者がどこをどう膨らませてくるのか大変興味のあるところです。形から言えば、後半は伸びませんので、書き出し4行のさばきでしょうが案外苦戦しそうな予感がします。貴女ならどう書きますか。

体育学部に進学し、陸上の7種競技の日本一を目指すFさんの400字の志望理由書です。

私は貴学陸上部の顧問である本田先生の指導の下で精進を重ね、5900点という7種競技の日本記録保持者である中田選手に一步でも近づくことを切望しております。私は中学時に3種Bで全国大会に出場しましたが惨敗し、全国の壁を思い知ると共に悔しい涙を流しました。以来、高校では「何としてでも全国制覇をするんだ」という一心で

練習に賭けてきました。しかし、最後のインターハイ直前の高校選手権で膝を痛めてしま万全の状態では試合に臨むことができず結局3位に終わってしまいました。今後は得意なハードルや槍投げの記録を更に伸ばし不得意種目である800メートルの記録を伸ばすために持久力や体力を付ける必要があると考えています。また、競技は2日に及ぶことから、モチベーションを高く保つ集中力や強い精神力を養うことにも努めます。貴学においては、将来日本を代表する7種の選手になるために、日々力の限り努力することを誓います。

400字は難しいですね。短かすぎる。せめて600字はほしいものです。Fさんも大学卒業後の進路志望を入れるか否か、随分迷いました。しかし、入らないんですね、400字では。それで思い切って、大学生活における目標一本に絞った。これはやむを得ない選択で、私はFさんの判断を支持します。

介護福祉士を目指すGさんの志望理由書です

現在の日本は、高齢化が進み、数年後の団塊の世代の現役引退を機に一気にその勢いを増そうとしています。一方において少子化の進行にも歯止めがかからず、平成16年度現在の出生率はついに1.4人を割り込みました。このような状態の中で政府は、高齢者の医療費負担や介護負担の増額を実施し、核家族化が進むなかで老人達は不安な日常を過ごしています。また福祉の施策の遅れから老々介護や年金、独居老人へのケア、デイセンターや老人ホームの不足、障害者の住みよい街作りのなど公機関が早急に取りかからなければならない多くの問題が存在しています。

私の祖母は50代で祖父を亡くして以来一人暮らしを続けてきましたが、足を痛めた後転倒したことがきっかけで歩くことが不自由になり、2年くらい前から週に3度程度昼間にホームヘルパーさんのお世話になるようになりました。しかし、次第に健康の状態が悪くなってきたことと、夜の生活に不安を覚え、1年前に施設のお世話になることになりました。入所にあたっては、長年住み慣れた家を出ることに抵抗感を示しましたが、入所後施設の方や同年齢の仲間、介護福祉士さんの愛情に包まれて今では、施設のバスを利用して遠出をするなどすっかり明るさを取り戻し元気に生活をしています。特に祖母のお見舞いに行った折りに拝見した介護福祉士さんの老人の身にたった親身なお世話ぶりとお顔を見て「すごいなあ」と感心し、自分も将来は高齢者や体の不自由な方を介護の面からも精神的な面からも支えられるような仕事に就きたいと考えるようになりました。

貴学入学後は、ハウステンボスを利用した介護実習やボランティア活動を通して高齢者への接し方を実地で学ぶと共に「老人・障害者の心理」について詳しく学び、国家試験対策のための0限目の特別授業に参加して、社会福祉士および介護福祉士の免許を取得して将来は老人ホームなどの施設で働きたいと考えています。私は貴学のパンフレットやオープンキャンパスに参加して貴学の建学の理念が「ホスピタリィー」であることを知り、3年間学んできた長崎女子高校の教育方針である「奉仕の心・まごころ」を大切に人間教育に相通ずる事を知り、貴学で大学生活を送りたいと考え志望致しました。

・ ・ 型ですね。一般論として、深刻な社会問題となっている少子高齢化、福祉の施策の立ち後れについて述べた後、一転して身近なおばあさまの話を持ち出し、福祉志望への決意を導くくだりは上々です。入学後の抱負、志望校決定の根拠も無理なく記載されており（ハウステンボスを利用した介護実習・国家試験対策のための0限目の特別授業・建学の理念が「ホスピタリィー」である）、十分な志望理由書になっています。内容、構成共にすばらしく、書き手は表現力に優れているにとどまらず、高校生としてかなりの

人間的力量を備えた人物であると思われます。

心理学を学びたいHさんの志望理由書です。

現代の日本では少年犯罪が年々増加して深刻な社会問題となっています。特に昨年の「駿ちゃん」の事件は被害者の駿ちゃんと加害者の少年がともに私の弟たちと同年代でしたのでとても身近に思えました。そして、どうしてこういう犯罪が起こるのかどうしたら防止できるのか、何か自分にできることはないかと真剣に考えるようになりました。私は、現代の子どもを取り巻く環境を思う時、事件を起こした子ども達が特別な存在ではなどの子供にも加害者のなりうる可能性があると考えます。

7月に貴学のオープンスクールに参加して、エゴグラムの模擬講義を受けたり、人間の深層心理を投影する「箱庭」の設備を見て一層心理学への興味が増し貴学への進学を決意しました。将来は大学院に進んで臨床心理士の資格を取り、カウンセラーとして活躍したいと考えています。

・ ・ 型です。コンパクトに無駄なくまとめている、というのが第一印象で合格でしょう。身近で続発する筆者と同世代の青少年たちが引き起こす犯罪。オープンキャンパスを体験し深まった犯罪者の深層心理理解明への関心の高まり。大学院に進みカウンセラーとして活躍したいという将来の目標が体験談を交えながら書けています。勉学に対する関心の高さや熱い思いも伝わってきます。

将来新体操の指導者を目指すIさんの志望理由書です

私は、大学卒業後帰郷し、新体操の指導者として母と共に力を尽くしたいと考えています。県は他県に比べ、女子の新体操競技への取り組みが若年層に対して弱く、指導者も不足しており、全国的に競技レベルが高いとはいえません。また競技人口も少ないのが現実です。私は貴学において優れた指導力を身につけ県のレベルアップをはかると共に演技する楽しさや感動を伝え競技人口の裾野を広げることにも努めたいと思っています。また近年、青少年の運動能力の低下や生活習慣病心の歪みが引き起こす凶悪な犯罪が社会問題化しています。もちろん、スポーツをすることで様々な問題が全て解決するとは思いませんが、私は新体操を通して、協調性や自律の精神を養い強い体と心を持てるようにしたいと考えています。貴学入学後新体操部に籍をおき自身の技量を高めつつ、審判員の級を取得し、ジュニアへの指導も始めたいと考えています。また、選手に技術指導はもちろん、怪我の予防法や対処法、精神的な面からも信頼される指導者となれるよう、「スポーツ栄養学」や「スポーツ心理学」、「スポーツ障害論」などをしっかり学びたいです。貴学には、中学時代に先生をお招きしての強化練習に参加した経験から親しみを感じていたことや、顧問や母の薦め、何よりも貴学のカリキュラムが将来新体操の指導者を目指す自分の目標達成のために最も適していると判断し志望致しました。

・ ・ 型ですね。冒頭で「大学卒業後帰郷し、新体操の指導者として母と共に力を尽くしたい」と将来の目標を一息に述べる姿勢に筆者の潔さを感じます。大学生活への意欲や行動プラン、あるいは資格取得に対する意気込みなども具体的に語られており、説得力があります。最後の5行はトドメを刺すともいえる内容で、相手のことを十二分に理解しての出願であることが伝わってきます。何よりもよどみのない文章で読みやすいですね。読みやすいと言うことは、筆者が無理なく書いているということで、すばらしい志望理由書です。構成も非常によい。私が試験官なら高得点で合格の判定を下します。

文学部現代日本語日本文学科志望のJさんの志望理由書

私は中学生のころ放送部に所属し、昼の校内放送の原稿をつくりアナウンスをするうちに、将来はテレビ局などマスメディア関係の職場に就職し、生活に身近な情報を県民の方々に広く提供できる仕事に就きたいと考えるようになりました。

この夏、貴学の進学相談会やキャンパス見学会に参加させていただき、先生方から詳しく説明をお聞きして、文学部現代日本語日本文学科の文化マネジメントコースでは、社会コミュニケーションの勉強が1年次から専門基礎科目として学ぶことができ、大学卒業後は放送局や出版社への就職の道が開かれていることを知り貴学への進学を決意しました。貴学進学後は、将来の目標を達成するために、マスコミ論など専門科目の勉強をすることはもちろんですが、江国香織さんなど現代活躍中の作家の作品についても深く学びたいと考えています。また、広い視野と見識を深めるためにサークル活動に積極的に参加したり、できればもう一度イギリスにも留学して国際理解に努めたいと思います。資格取得に関しては、文章を読んだり書いたりすることが好きで本に興味がありますので、図書館司書の免許と博物館学芸員の資格は取得しておきたいです。

私は、日本の近代文化発祥の地であるふるさと長崎で100余年の良き伝統を誇られる貴学において充実した大学生活を送ることを何より願っています。そして、国際化社会、情報化社会と呼ばれる21世紀を地域で活躍できる教養豊かな女性として生き抜ける力をぜひともつけたいと考えています。

将来の夢から入りましたね。 ・ と一文で一氣に述べて、 へ。そして再び ・ の内容を厚く述べる構成になっています。また、「将来はテレビ局などマスメディア関係の職場に就職」・「社会コミュニケーションの勉強」・「マスコミ論」・「江国香織さんなど現代活躍中の作家の作品」・「イギリスにも留学」・「図書館司書の免許と博物館学芸員の資格」など具体的な表記が多く説得力があります。合格ですね。最後の5行は「一応の挨拶」といったところで、今回はよくまとまっているので結構ですが、他に言いたいことがある場合には遠慮なく5行ともバツサリ切って構いません。

管理栄養士を目指すKさんの志望理由書

近年、食生活の乱れが原因で若年層においても、生活習慣病に苦しむ人が増加しています。そこで、食生活の改善に対する適切な栄養指導ができる高度な専門知識や技能を備えた管理栄養士が必要となっています。私は、家庭科や食物コースで食生活の重要性や「食」にまつわる様々な問題点を学ぶうちに、将来は病院や福祉施設などで時代が求める栄養士として活躍し、少しでも社会の役にたちたいと考えるようになりました。私が貴学の健康生活学部、食生活健康学科を志望した第一の理由は卒業と同時に管理栄養士の国家試験受験資格が得られることに魅力を感じたからです。大学では健康維持と食生活、病気の発症や回復と食生活の関係をより深く学びたいと考えています。

また、成長期にある子供や活発に体を動かす運動選手、高齢者まで、幅広い年齢や様々な活動をする人たちに最も適した食生活のあり方を学びたいと思います。また、四年生では将来福祉施設や保健所などで活躍できるよう保健栄養コースに進みたいと考えています。

冒頭、「食」にまつわる今日の問題点をあげ、大学選択の理由、大学生活への期待や抱負、最後の卒業後の生活への設計と、全く無駄のない論理的な筋立てになっていて、減点対象となる箇所が見あたりません。きれいな ・ ・ 型です。簡潔でしまりのある書きっぷりで心地よい。合格です。

看護師志望のLさんの志望理由書

私が看護師という仕事に興味を持ったのは、五島の小島に独りで住んでいた祖父が長崎の病院に入院したのがきっかけでした。その時、看護師さんが祖父の耳元でわかりやすく話をしたり、呼吸をしやすくしてくださったり、祖父が喜ぶ姿を見て私もこんな風にひとを支える仕事をしたいと考えるようになりました。そして、高校2年次の春休みに看護体験学習に参加し、実際に患者さんに食事を差し上げたり、体を洗ってあげたりして患者さんが喜ぶ姿を見てやりがいを感じ、看護師になる決意を固めました。

私が貴学に進学したいと考えましたのは、地域と密着した環境の中で学ぶことができるからです。離島での実習システムを整えておられるところに大きな魅力を感じました。高齢化社会が進み、介護保険制度始まり、在宅看護が増えています。長崎には祖父が住んでいたように病院のない多くの離島が存在します。私はそんな離島の在宅看護に貢献したいと考えています

医療は日々進歩して高度な治療が行えるようになっていますが、反面、医療ミスにまつわる事故も多発しています。私は貴学において高い知識と技術を身につけ、病気で苦しんでいる患者さん達に信頼され、心の支えとなれる看護師になりたいと考えています。

離島に住んでいた祖父の入院をきっかけとし、看護体験学習を通して看護師への道を志したLさんの志望理由書です。離島の在宅看護に貢献したいという根拠が明確に述べられており、前半から中盤にかけては説得力があって非常に良いですね。

最後の五行は「形」ですが少々陳腐でつまらない。具体的に力を入れて学びたいことなどを入れた方がよいように思います。全体としては構成もよく、まとまりがあって落ちない理由書ではあります。

養護教諭を目指すMさんの志望理由書です

現代は少子化や核家族化が進行し、女性の社会進出がめざましい時代です。また、高学歴化の進行にも歯止めがかからず、子ども達は幼い頃から厳しい受験を勝ち抜くために、塾に通っています。そんな中で一人でごはんを食べる「孤食」やメールやチャットの利用が原因となる事件や事故も増加し社会問題化しています。コミュニケーション能力を十分に備えていない現代の子ども達は様々なストレスと闘いながら毎日の生活を送っています。従来、学校の保健室は突発的に怪我をしたり、体調不良を訴える児童や生徒達が利用する場でした。しかし、貴学を卒業して養護教諭をしている母の話によると、最近の保健室は友人とのトラブルを上手く解決できずに教室に入れなくなったり、様々なストレスが絡み合って体調を壊してしまった生徒の利用が目立つようになったそうです。私は幼い頃から母の影響で漠然と養護教諭の仕事に関心を持っていましたが、高校2年生の秋に、友人が人間関係のトラブルから教室に入れなかった時に養護教諭の対応を見ていて志望を固めました。養護教諭は友人の悩みを根気強く親身になって聞き、アドバイスを努め保健室への登校を勧めました。そして、毎日様々な角度から話をしたり、勉強をする環境を整えたりしながら学力の維持にも努め、最後は転学のアドバイスを与えました。学年末まで本校で過ごした友人は結局転校し、現在は元気に楽しい高校生活を送っています。私が養護教諭になれましたならば、親や友人、担任の先生にも相談することのできない悩みを抱えて保健室にやってくる生徒達それぞれの悩みにまずしっかりと耳を傾け、生徒の立場に立って共に考え、学年や担任と連携をはかりながら適切なアドバイスや対応をして一日でも早く楽しく健やかな学校生活を取り戻すためのお手伝いをしたいと考えます。貴学2年間で学んだ後は更に専攻科に進み、母に負けない養護教諭として活躍したく志望致しました。

保健室の先生、養護教諭を目指すMさんの理由書です。Mさんはまず、現代の子供たちがおかれている環境を客観的に分析しながら、保健室の果たす今日的役割の一端を養護教諭である母の体験談を交えて述べています。そして、人間関係のトラブルから教室に入れなくなったの友人の例を引きながら養護教諭への道を志した経緯を述べ、最後に「母に負けない養護教諭」になる決意を述べて文章を締めくくりました。構成もよく、引例も具体的で力強い。合格です。

次に、将来スクールカウンセラーを目指し、人間心理学科を目指すNさんの志望動機です。

この世の中で一番よく知っているようで、分かっていないのが自分自身のことです。私自身友人に私の性格を問うと思ってもよらない答えが返ってくることがあります。私は今まだ17歳ですがもしかしたら、人間の一生というものは、貴学の藤原珠江先生が仰るように自分探しの旅なのかもしれないと思うことが最近よくあります。日々、人は無意識に支配された意識の世界を歩きつ戻りつしながら判断し行動しています。この未知なる不思議のメカニズムについて勉強がしたい。自分自身というものをもっともっとよく知りたい。精神と行動の連関について学びたい、そう思い貴学人間心理学科を志望しました。将来は貴学の大学院に進み、自分を見失って悩み、苦しみ、学校生活や社会生活を送れなくなってしまった人たちのカウンセラーとして力を尽くしたいと考えています。(今の私にはまだ人の旅の道しるべや案内のできる力はありませんが、大学生活の中で広く見聞を広め学究に努めることで将来カウンセラーに相応しい力量を備えたいと考えています)。

進学への契機、進学後や将来への抱負が簡潔に、しかも具体的に述べられており中盤杉までは上々でしょう。ただし、結びの()内の内容はなくても支障がなく、むしろ最後で文章が緩んだ気さえして、「形」ではありますが私は評価しません。

次に、東京学芸大学に進んで保健体育の教員を目指しつつ、生涯スポーツに尽力したいと考えているOさんの志望理由書です。

近年、日本の社会は物質的には豊かになったものの、高学歴化社会の進行、女性の社会進出、核家族化の進行などを背景に、多くの子供達が氾濫する「もの」と多様な価値観の中で、過大な受験競争を強いられ、充実感や達成感に乏しい毎日を送っています。そして、それらが誘因となって学級崩壊やいじめ、不登校、自殺など深刻な社会問題を引き起こしてもいます。

私はバスケットボールを始めて10年になります。厳しい練習の中で辛く悔しい思いも数多く体験しました。また、キャプテンとしてチームをまとめる難しさや全国の檜舞台でカー杯プレーできる喜びと感動も経験しました。私はバスケットボールを通して自分の可能性を信じ努力することの大切さを学び、困難に立ち向かう勇気と協調性を身につけることが出来ました。

運動には人の心と体を逞しく豊かにする不思議な力があります。私は保健体育の授業を通して、子供達の精神と肉体を鍛え、自他の心身を大切にすることの大切さを教えたいと考えています。そして、子供達が生活や勉学の場で、主体的に自ら問題を発見し、自らの手でそれを解決していく力を育む姿勢がもてるよう導いていければと思っています。

また、高齢化社会が進行する中、社会体育の重要性が指摘されていますが、出来ればバスケットボールを通して多くの方々の健やかで実り多い生活作りのお手伝いが出来れば幸せと考えています。

何とって、目新しい内容でもなく総じて平凡ではありますが、特段の「難」もなく、まあ「落ちない理由書」ですね。Oさんは、普段から小論文を指導していても筆力がありますし、バスケの実績もすばらしいので、落ちない無難な理由書でOKというところでしょう。小論文や志望理由書にも、勝ちにいく（点を稼ぎに行く）場合と逃げる（悪くはない）作品とがあります。

文学部人文学科の言語学専攻のPさんのAO入試出願用の1600文字の志望理由書を読んで戴きます。

「事物や事象」に対する認識が文化の相違によって決定されることや「言語とモノ」の関係に私は強い関心を持っています。私が言語文化に興味を持つ契機となったのは、高校2年生のある日英会話部の顧問の先生が雑談の中で「日本では満月の月面の模様はウサギがお餅つきをしているように見えると言うけれども、中国ではガマガエルやカニ、ヨーロッパでは男の顔に見えると言われているのよ。」と仰ったことにあります。お話をお聞きした時は、ただ驚いただけで終わったのですが、時間が経つにつれてどうして同じ月を見ていながら見え方に違いが生じるのだろうという疑問が湧いてきました。そこで、自分なりに何とか調べようとしたのですが、その頃の私にはどのような書籍や資料を調べればいいのかさえ分からず頭をひねる日々が続きました。やがて、ヨーロッパの国々には餅をつくという文化がないことを知り、餅つきの文化を持たない民族が「餅つき」という発想を待たない必然にたどり着きました。笑われる稚拙な思いかもしれませんが、この発見は私にとって自分の進路を変えるきっかけになるほど大きなものとなりました。私はこれまで、言語は文化の1つであるとは思っていましたが、言語を文化に裏打ちされた存在という観点から考えたことがなかったのです。新しい言語観を得た私は、言語とモノの関係について深く考えるようになり、少しずつですが書籍やインターネットを使って言語の不思議の世界を散歩するようになりました。そして、たとえば、雪原に生きるエスキモーの人たちには52種類もの雪を表現する言葉があるのに対して日本では多くの地方で雪の観測はできるけれども、雪の呼称が降雪と積雪双方合わせても13種類しかないことや貴学のゼミナールのテーマとなっていた「虹の呼称や色の種類」が民族によって違っていることなど多くの事象を知りました。そして、言葉があるということは、その言葉に対応するモノや情感があるということであら言語は地域、文化、性別、年齢、思想、歴史など私たちの生活と密接につながっているということを実感するようになり、上級校では言語文化を対象とした勉強をしよう考えるようになりました。3年生になって最も興味深く考察を進めたのは、夜空に横たわる「天の川」に関する東洋と西洋での発想の違いです。中国語と日本語では銀河を太陽に照らされ、川床の小石がきらきらと輝いている清流の様子に似ていることから「川」に喩えています。一方、西洋においてはギリシア神話のヘラクレスが赤ちゃんの時に女神ヘラの乳房を強く吸ったためにミルクが吹き出て夜空を一周したという神話から、英語でミルキーウェイ、ドイツ語でミルヒシュトラッセ、フランス語でヴォアラクテというように、それぞれの言語で「ミルクの道」と喩えています。このようなとらえ方の違いも視覚構造ではなく文化の違いに起因している一例といえます。日本・中国といった東洋の発想で「川」という自然を基本とし、英語・ドイツ語・フランス語といった西洋の発想にはギリシア神話が大きな影響をおよぼしており大変興味深い事例であると思います。私は、中学生の頃から英語の学習に興味を持って取り組んできましたが、現在では英語学習も言語文化の学習として意識するようになり、従来よりも広い視点から学ぶ楽しさを感じるようになりました。日本には『以心伝心』という言葉がありますが、正確な意思の疎通を図るためには言語は不可欠です。世界のグローバル化が進み高いコミュニケーション能力が求められる今こそ、生きた人間の生活を背負った存在として言語をとらえ学ぶ必要があると考え

ます。私は貴学の欧米文学語学・言語学コースにおいて、母国語である日本語をはじめ国際共通語である英語、さらにはボランティア活動を通して出会ったタガログ語を始め多くの言語の研究をしたいと思い志望致しました。

構成上重複の見られる箇所もありますが、高校生の1600字としては、良く書けているといえます。言語学への関心の高まりの過程も良く伝わってきますね。進学して、いい研究をしてもらいたいものです。

児童保育学科志望のQさんの「志望動機・入学後に学びたいこと」

女性の社会進出と少子化が進む中で、家庭や地域の教育力が低下して、以前に比べて人と人との温かい関係を築いたり、かけがえのない自他の存在を大切にするのできない子どもたちが現在増加しているように感じます。「三つ子の魂百まで」という格言どおり人間形成にとって幼児期の過ごし方は非常に重要であると私は考えています。私は保育園や幼稚園の教諭として日常の諸活動はもちろん、音楽や絵画、書道や体育などの教育を通して、協調性や思いやりの精神にあふれた感性が豊かで心身共に健康な子どもたちの育成をするための力量を是非貴学において身につけたいと強く願っています。したがって、貴学入学後は「こどもと言葉」や「こどもの表現」といった基礎的で重要な科目に加え、音楽や美術などの実技科目にも力を入れてその表現法や技能を学んでいきます。そして、子どもたちがもっている「豊かな感性や想像力・確かな表現力」を引き出せる教員になりたいと考え志望いたしました。

あたま9行が志望動機ですが、「したがって」で入学後に学びたいことに繋いだ流れは美しいですね。入学後に学びたい科目をあげている点もカリキュラムを熟知し受験校についての研究に怠りがないことを伺わせるに十分です。結びには、筆者が目指す子どもたちに備えさせたい資質「豊かな感性や想像力・確かな表現力」を置きこじんまりとではありますがよくまとまった文章になりました。

Rさん「21世紀を看護師として生きる」1800字

私の人生の目標は、「社会や人のために力を尽くすことを自分の幸せや誇りと感じることのできる人間になること」です。私の母校の校訓の一つに人間愛に基づいた「共生」の教えがあります。学校を挙げて、年齢・性別・文化・民族を超えて多文化を理解し行動できる生徒の育成を目指しています。また奉仕活動と平和活動の推進に特に力を入れており、私自身も進路学習や課外活動をはじめとする3年間の高校生活の様々な場面で「共生社会」の実現に向けて自分には何ができるのか、その可能性を探してきました。たとえば、「真心運動」や「ブルタブ運動」といった奉仕活動、看護体験学習や障害者施設の訪問、さらには、「核兵器廃絶高校生一万人署名活動」、「ミサイルより鉛筆を」の協力にも積極的に取り組んできました。二〇世紀の日本は戦争と科学技術が飛躍的な進歩をみせた時代といわれます。そして、自然破壊、地方の過疎化、核家族化、少子化が進行し、カネとモノがあふれかえる混沌とした時代であったと聞きます。しかし、私達が生きていく21世紀は国際社会がボーダレス化する中で、人は自然に対し畏敬の念を持って接し、世界の人々は互いを敬愛し尊重し合うところと平和を重んじる時代であらねばならないと私は考えます。近年の内外の社会情勢を見ていますと、中東では戦火が絶えず、国内では医療費や福祉年金税、消費税の値上げ論議が盛んになるなど、人に優しい福祉世界の実現にはまだまだ時間がかかりそうです。

そのような現実ななかであって、私は、将来看護師として社会に貢献したいと考えています。看護の仕事との出会いは小学生の時に見た看護師の仕事を取り扱ったテレビの

ドキュメンタリー番組で、看護師のりりしい仕事ぶりに漠然とした憧れを抱きました。その憧れが、明確な進路志望となったのは高校一年時の祖母の入院とその死でした。それまで元気だった祖母がある日急性白血病で突然入院し、七ヶ月の闘病の後帰らぬ人となりました。私はおばあちゃん子でしたので、毎日のようにお見舞いに行きました。病院では看護師さんたちが、投薬や点滴などで祖母の苦しみを和らげたり、自分の顔を祖母の耳元に近づけて話してくださったりして、祖母のとても喜ぶ姿がしばしば見られました。それに対して、私はただ側で見守るしかない自分の無力さに腹立たしい気持ちを抱きました。そして祖母の闘病生活をとおして看護師さんたちのお仕事ぶりを拝見するうちに、自分も看護師として病気や怪我と戦っている人たちの回復のお手伝いをしたいと強く思うようになっていきました。結局祖母は亡くなりましたが、献身的な医師や看護師さんたちの治療や看護のおかげで大きな苦痛を抱くことなく祖母は死の時を迎えることができました。また、祖母の最期や同じ病室の方々の死を間近に見つめることは、人が人らしく生き、そして死んでいくことの意味を私に深く問いかけました。現在医療技術は日進月歩の進歩を続け、臓器の移植はもちろん遺伝子治療も可能となりました。先日は福岡ダイエーフォークスの王監督も胃癌の手術をなさいましたが、その経過が示すとおり癌も、もはや不治の病ではなくなりました。こうして医学が進歩して次々と難病を克服し、多くの人が幸せな人生を長く送り続けることが可能になっていくことは素晴らしいことです。

貴学入学後の抱負として、私には取り組みたい二つのことがあります。一つは、当然のことですが、時代が要求する質の高い看護師になるための確かな学力と技能の習得です。「共生」を人間教育の基本として高校生活を送ってきた私には、人間愛を根本理念におき、臨床・実地に基づいた実践的なカリキュラムを持たれている貴学は理想的な学びの場です。私は二年間医療看護コースで勉強をしてきましたが、向上心と克己の心には自信があります。貴学において、たゆむことなく、患者さんから信頼を受け、安心と希望を与えられる豊かな人間性を備えた看護師を目指して精進したいと思います。また、超高齢核家族社会では、在宅看護や老々介護など地域医療の必要性もますます増していくものと考えますので、将来は訪問看護にも対応できる看護師として、高齢者が安心して自宅療養できるよう普段からの健康チェックや床ずれの手当て、またリハビリの指導にもあたれる看護師であるよう十分な勉強と実習をしたいと考えています。

「厳しく困難な問題が山積する21世紀の現実から目をそらすことなく、福祉共生社会の実現に向けて自分はいかに生きるべきか」という命題に真っ向から向き合う真摯でたくましい姿勢がずっしりと伝わってきます。看護志望の動機や将来の看護師像も具体的かつ明快に語られており、1800字という長文に耐えるだけの大変力のある理由書となっていますね。

以下SさんからXさんまでの志望理由書

長崎大学の教育学部が推薦入試で求めてくる

A O入試で長大教育中学英語を受験したSさんの
「入学後学びたいこと」・「貴女自身を語りなさい」です。

入学後学びたいこと

戦後60年が経過し、被爆者の高齢化が進む中で私は被爆体験を聞ける最後の世代として被爆者の方々と交流を持ち、核兵器廃絶を世界に求める「高校生一万人署名活動」

に参加してきました。その中で平和教育の一層の充実を図るには、世の中の事象を自覚的に捉えることができる中学生の段階からより主体的な活動の場を提供する必要性を感じました。そして、中学生が具体的な活動体験を通して平和に対する認識を深められると考えます。今後、平和を求める運動は長崎から全国、そして世界へとその連携の輪を広げていかななくてはなりません。その際、グローバル化が進む21世紀にあって子供たちが平和活動をはじめとする文化交流や経済活動を積極的に進めていくためには自己を適切に表現するコミュニケーション能力が必要です。「読む、書く、聞く、話す」の四技能が強く求められていることは言うまでもありません。私は高校3年間での積極的な英語学習と様々な経験等を経て、英語を用いることで世界が身近に感じられるようになりました。そこで自分の体験から学んだことを生かし、英語や異文化を学ぶ「楽しさや喜び」を生徒に伝え、四技能のバランスのとれた英語能力と幅広い国際的知識を備えた人材の育成に携わりたいと思っています。そのためには、まず私自身が時代に即した「生きた英語力」を身につけることはもちろんのこと異文化理解や一般教養の知識も深めたいと考えています。また、私は貴学の4年間で実用英語技能検定1級の取得を目指し、在学中に語学留学を経験し国際的視野を広げ教育者としての資質と人間性を高めていきたいと思っています。

+

あなた自身を語りなさい

私は高校3年間、大学進学を目指して特別進学コースで受験勉強に励みながら「自分が輝けるものを見つけ、精神性を高めるための活動(プラスONE運動)」をしようと次の2つのことに取り組みました。1つ目は英語弁論です。英語は中学時代から得意な教科でしたが「話す」という域まで達しておらず、高校で英語のディベートの授業を受けて、自分の意見を正確に英語で伝えたいと思い英会話部に入部し、弁論大会への出場を決めました。最初は英語で意見を述べるどころか人前に立つことにも不安を感じており、大会に初出場するまでに何度も断念しようかと考えました。しかし、時間をかけて練習を重ねれば「不安は自信へかわる」と信じて取り組むうちに自分が変わっていくのを実感するようになりました。3年間で様々な大会に出場して、英語で自分の意思を述べ、また、聞き手の共感を得る表現力を身につけることができました。2つ目は「長崎県高校生1万人署名活動」です。私は戦後60年が経ち戦争の体験者が年々少なくなっていく中で私達若者がその意志を受け継ぎ平和の尊さを長崎から発信していこうと考え、生徒会長として、実行委員として校内外で署名活動や平和学習会などを行ってきました。また、貧しい子供達へ文房具を届ける「1万本鉛筆運動」にも取り組み、2年連続でフィリピンを訪問しました。私はこれらの活動を通じて「他のために奉仕することの大切さと喜び」を実感し、貴学においてもこの活動を継承するために力を尽くしたいと考えています。現在は実行委員の活動を続けながら10月から新たに船越教授の平和学習講座を受講し市民の方々と平和学習を行っています。私は「学び」に「体験」は必要不可欠であると考えます。高校3年間、時間を惜しんで勉強とプラスONE運動に取り組んできました。「24時間という人間に平等に与えられた時間をいかに有効に使うか」ということが常に私のテーマでありました。私は人間性の基盤となるのは知識であると考えます。しかし、様々な体験をすることによって知性と人間性の両面が深められるのだと思います。私自身3年間の経験を通じて人間的に成長できたと感じています。

+

高校在学中の活動

私が高校生活で最も力を入れて勉強した科目は英語です。高校2年生の時にオーストラリア文化語学研修への参加を通して一層英語学習への関心が高まりました。学級活動では、体育祭の色別応援団のリーダーとしてみんなの思い出に残るような体育祭にするためにクラスや学年をまとめてがんばりました。その結果高校生活屈指の思い出に残る体育祭を終えることができました。現在は学級副委員長として委員長をサポートしてクラスをまとめています。部活動は写真部に所属して活動をしてきました。最後に、ボランティアとして毎朝通学路に落ちているゴミを拾う「真心運動」を実践しています。

平和活動・プラスONEの英語弁論・英語学習・ボランティア活動と充実した3年間を送ったSさんでした。「入学後学びたいこと」の内容が、少々「平和」に傾きすぎてはいないかと議論しましたが最終的にこの内容で願いました。筆力十分。活動歴十分。コミュニケーション能力抜群のSさんは見事長崎大学の門をくぐることとなりました。

大分大学の社会福祉学科を志望したTさんの志望理由書

終戦後、社会構造の変化に伴って人口の都市への一極化が進み、地方が過疎化する中で急速に核家族化が進行し家族の構造は弱体化していきました。一方、日本経済の復興期、高度成長期を経てバブル経済がはじけると、正規雇用は手控えられ就職は「氷河期」と呼ばれる時代を迎えました。そのような状況の下で、個人間・国家間における競争社会での敗北は「自己責任」という名の下に次々と救済策は切り捨てられていきました。その代表的な例として、現在重要な社会問題として議論されている、医療費や介護費用、年金などの諸問題を挙げるができます。現代の日本は、自然破壊による深刻な環境問題を抱えると共に、社会的弱者には非常に辛く厳しい格差社会を迎えています。そのような社会状況の中で、我が国は現在少子高齢社会が進行し、まもなく国民の4人に1人が65才以上というかつて経験したことのない超高齢社会を迎えます。核家族化と高齢化の進行は「老々介護」や「独居老人」にまつわる深刻な問題を生み出しました。私は、今こそ福祉共生社会の実現に向けて、政権や政党の壁を越えて国民が一丸となって住みよい地域作りを目指して知恵を絞り汗を流して支え合う時代だと考えます。私の祖母は大分で一人で暮らしています。年々年を重ねて、経済的な問題から風呂掃除や買い物といった日常の生活に至るまで様々な生活の困難を背負っています。私は母と共にこれまで、ボランティアで多くの高齢の方や片親の方々の生活上の悩みを聞く機会を持ちました。そして次第に、日本の国を支えてきた高齢者の方々が、そのかけがえのない人生の晩年を人間らしく豊かに暮らしていけるように私は力を尽くしたいと考えるようになりました。進路学習を積む中で貴学に国立大学で「福祉」という名称を冠している唯一の学部があり、社会福祉士の資格が得られる事を知りました。また、オープンキャンパスに行った際に、学内にボランティア活動場所の提供などを行なうボランティア支援室が設置されていることや「障害者問題研究会」や「手話サークルたなごころ」といったサークルがある事を知り一層貴学への進学意欲が高まり志望致しました。

長崎大学経済学部理由書 Uさん

私は中学二年の終わり頃からNHKの「週間子供ニュース」を見る内に、国際紛争とエネルギー問題、デフレと消費力の低下、円の価値の上下と株価の変動、安価な外国産商品の輸入と日本経済の停滞、消費税や年金問題と少子高齢化社会の問題点など国家や

社会の中における多くの問題が経済活動と深く関連していることに気がついた。そして高校に入学して学年があがるなかで、公民の授業や新聞記事を読む中で日本の産業構造のゆがみや経済活動のあるべき姿への関心が高まって専門的な勉強をしたいと考えようになった。現在の日本企業の勝ち組は、生産を海外の安価な人件費に頼り、薄利多売で価格破壊を続けつつ成長を遂げる企業と高い技術と質の良さで活動を展開する企業とに二極化している。IT革命以後の高度情報化社会に対応したパソコンや携帯電話など新しい分野の商品の開発やトヨタを代表とする自動車産業は大胆な世界戦略を展開し成功を収めている。反面、漁業や農業の分野では安価な外国の輸入モノに競争負けをして食物自給率は著しく後退し、「産業の空洞化」、「雇用の確保」、「生活必需品の安定した確保と安全性」といった大きな課題を抱えている。21世紀は、アジアの時代といわれるが中でも中国経済は日本のバブル期を上回る勢いで成長を続けている。日本経済の活性化はいかにして大きなマーケットで将来性のある中国やアジアの国々と手を取り合い、相互の産業の特長を生かしながら共存共栄の道を探ることにある。そのためには、政治や文化の違いを超えて意志の疎通を図り、理解を深めるための語学力が必要だ。貴学入学後は、まず世界の共通語としての役割を果たしている英語の学習に励み在校中にTOEICの600点以上を目標に努力をしたい。また、基礎から中国語やハングルを学んで卒業までには会話や記述にも堪能になりたい。そして、何よりも「国境を超えた地球規模での流通のありかた」を学んで日本経済の安定した活性化を図る仕事に就きたいと考えている。

保育学科 志望理由・入学後の抱負・将来の目標等 Vさん

私が御校の保育学科を志望した理由は、長年の目標である保育士の免許が取得できる点と自分の得意科目であり更に力を付けたいと考えている英語を同時に勉強することができるからです。私の両親は共稼ぎで、私は1歳の時から小学校に入学するまで保育園でお世話になりました。当時から母の仕事はハードでしたので、私のお迎えは時には午後7時になることもあり、園児達が一人減り、2人帰宅していく中で私はほとんど最後まで園にいました。取り残されたような寂しい気持ちで遊んでいる時いつも「ゆかり先生」という保育士さんが私の側と一緒にテレビを見ながら話しかけて下さったのを今でも懐かしく思い出します。そして、小学校の5年生の頃には将来は保育士になり寂しい気持ちで保護者のお迎えを待っているこども達に寄り添える保育士になりたいと考えてようになっていました。保育士を生涯の仕事にしようと決意したのは中学・高校と二度にわたるインターンシップでの保育園での体験にあります。インターンシップ先の保育園では保育士さん達がこども達の気持ちを配慮しながら生活のマナーや基本的な生活習慣が身に付くように指導されていることを感じました。私は馴れない保育園の一日の実習の中で「自分は今何をなすべきか」ということを考えるのに精一杯でしたが、ベテランの保育士さん達はこども達が家庭で過ごす時間が少ない分、安心してくつろぐことができる雰囲気作りにも細やかな気遣いをされていることに気づき、保育園がこども達の生活に重要な場となっていることを再認識しました。また、年齢の発達に応じて展開される保育を見て新しい発見や「なるほど、このように接するのか」と感心したり納得したりする点も多くありました。

また、21世紀を生きるこども達は豊かな国際感覚を備えていることが必須となります。私は高校二年生の時にイギリス文化語学研修に参加していわゆるカルチャーショックを受けました。しかしこの研修での体験は日本という国や自分自身を見直す大変良い機会になりました。自国の文化や言語に堪能であることはもちろんですが、小学校で英

語の授業を導入している学校も出てきているように国際共通語とも言える英語の実践的能力を子供のうちから身につけておくことが大切になってきます。たとえば私は、英語で紙芝居をつくって見せたり、歌やゲーム、ちょっとした日常会話に英語を入れるなどして自然な形でこども達が生きた英語に興味を持つ機会を作っていきたいと思いません。

貴学入学後の抱負は、次の三つの事柄に全力で取り組むことです。一つ目には、何と言っても保護者に信頼され、こども達に慕われる保育士になるために「児童心理学」や「ピアノ演習」などを中心にしっかりと学んで、専門的な知識や技術を身につけることです。二番目には、児童英語の指導者として活躍できるよう英語の習熟に力を入れ、英語検定でステップの二級に合格できるよう努めます。そして、できれば在学中に英語文化圏の国に赴いて保育園でのボランティア活動に参加したいと思えます。最後に、読書に親しんだり多くの友人と保育について語り合ったりして人間性を高め教養を豊かにして自立した一人の女性として社会で活躍できる資質を養い、二年後には立派な保育士として保育現場で活躍できるよう充実した短大生活を送りたいと考えています。

長崎国際大社会福祉学科 志望理由・入学後学びたいこと Wさん

現在の日本は、高齢化が進み、数年後の団塊の世代の現役引退を機に一気にその勢いを増そうとしています。一方において、少子化の進行にも歯止めがかからず、平成16年度現在の出生率はいよいよ1.4人を割り込みました。このような状態の中で政府は、高齢者の医療費負担や介護負担の増額を実施し、核家族化が進むなかで老人達は不安な日常を過ごしています。また、福祉の施策の遅れから老々介護や年金、独居老人へのケア、デイセンターや老人ホームの不足、障害者の住みよい街作りのなど公機関が早急に取りかからなければならない多くの問題が存在しています。

私の祖母は50代で祖父を亡くして以来一人暮らしを続けてきましたが、足を痛めた後転倒したことがきっかけで歩くことが不自由になり、2年くらい前から週に3度程度昼間にホームヘルパーさんのお世話になるようになりました。しかし、次第に健康の状態が悪くなってきたことと、夜の生活に不安を覚え、1年前に施設のお世話になることになりました。入所にあたっては、長年住み慣れた家を出ることに抵抗感を示しましたが、入所後施設の方や同年齢の仲間、介護福祉士さんの愛情に包まれて今では、施設のバスを利用して遠出をするなどすっかり明るさを取り戻し元気に生活をしています。特に祖母のお見舞いに行った折りに拝見した介護福祉士さんの老人の身にたった親身なお世話ぶり笑顔を見て「すごいなあ」と感心し、自分も将来は高齢者や体の不自由な方を介護の面からも精神的な面からも支えられるような仕事に就きたいと考えるようになりました。貴学入学後は、ハウステンボスを利用しての介護実習やボランティア活動を通して高齢者への接し方を実地で学ぶと共に「老人・障害者の心理」について詳しく学び、国家試験対策のための0限目の特別授業に参加して、社会福祉士および介護福祉士の免許を取得して将来は老人ホームなどの施設で働きたいと考えています。私は貴学のパンフレットやオープンキャンパスに参加して貴学の建学の理念が「ホスピタリティー」であることを知り、3年間学んできた長崎女子高校の教育方針である「奉仕の心・まごころ」を大切に作る人間教育に相通ずる事を知り、貴学で大学生活を送りたいと考え志望致しました。

金沢大学 建築学部 Xさんの提出書類

1. 本学部への進学の動機

私が貴学部を志望した最大の理由は、他大学のように「芸術」の技術や知識を習得することだけを主眼とするのではなく、「融合教育」による高い人間力を備えた人材の育成を目指すという教育の理念や目標に強い共感を覚えたからです。現在の日本は、国際化が進み多文化社会が進行する一方で景気が減速を続け、物や人の価値が数値化され画一化が進んで、豊かな人間性や生活のゆとりが失われつつあります。私は、日本の文化が香り漂う街作りや建築に強い関心がありますが、その担い手となるには「ひと」や「暮らし」を多面的に捉える広い視野と豊かな感性を備えていることが必須の条件であると考えます。貴学部における多様な学びの中で自分の資質を精一杯伸ばしたいと思い志望致しました。

2. 本学部で学びたいこと

長崎は江戸時代日本で唯一海外に門戸を開いていた土地であり、明治以降も現代に至るまで和洋中の文化交流が脈々と根づいてきた街です。私は、平成16年に開催された「長崎さるく博」を契機に、グラバー邸や孔子廟など現存する和洋或いは中日折衷の長崎独特の多くの建築物を訪ね、長崎だけが持っている国際交流の歴史や文化の奥深さを改めて知りました。「さるく博」での故郷巡り以降、建築物やインテリアのデザインに対する関心が高まり、インターネットや書物で日本の様々な建物について調べました。「五箇山の合掌造り」「日本古来から現在に伝わる伝統的な木組みの建物」「面で支え耐震耐火に優れるツーバイフォー」。日本の文化や気候にあった快適な住環境作りの担い手になるために貴学部では、特に「光と色彩の科学」や「インテリアデザイン」、「環境工学」等の科目に力を入れ幅の広い能力を身につけたいと考えています。

3. 本校卒業後の希望

私は以前照明デザイナーの石井幹子氏が岡山県倉敷市の街並みをライトアップすることで建築物の魅力を引き出される番組を見て、街並みの変貌に驚きその素晴らしさに惹かれました。名所や旧跡のライトアップのみならず、魅力ある新たな長崎の街作りに向けて建築やインテリアの分野からアタック出来ることはないかと私は考えています。また、俗に「衣食住」といいますが、生活にゆとりや潤いを欠く殺伐とした現代だからこそ、自分の住む建物には癒しや遊びが欲しいものです。さらに、平成7年に死者6437名、被害総額10兆円に上る未曾有の被害をもたらした「阪神・淡路大震災」を上回る東海沖の大きな地震がいつ起こっても不思議ではないといわれる日本は地震大国です。貴学卒業後は、一級建築技師として日本の自然と文化を充分考慮に入れながらよりよい住環境作りに努めていきたいと考えています。

AさんからXさんまで、25本の志望理由書を見てきました。できるだけ、様々な分野の志望理由書を読んで頂いたつもりです。24本もの作品を読んで頂いたのは、多く読むことで、志望動機の書き方の「ツボ」を肌でつかんで欲しかったからです。少しは要領がつかめましたか？こんな立派なものは書けない、と多くの生徒の皆さんが思っていることでしょうか。しかし、しっかりと準備をすれば書けるので案じないでください。材料集めと自己分析を怠りなく。1日1日の生活の充実度がいかに重要であるかがよく分かったと思います。

2～3本書写してみるのも、大変勉強になります。私は、他の人が書いた文章を書写すると言うことは自分が文章を書く上で非常に大きな力になると信じています。時に、エッセイや小説でも私は書写しています。

第6章【自己推薦書】

進学で推薦入試の一部とAO入試に求められます。自己を推薦するわけですから、客観的に外部から評価を受けた内容を中心として合格への意欲を示すのが通例です。優れた実績を複数持っている場合には、当然優先順位をつけて、高いものから記述します。多種にわたる場合には、内容にもよりますが、同じ種類のものを列記するよりは多種記述する方が高校生活での活動が広範にわたって旺盛であったことを伺わせる点でよいと私は考えます。

Aさんの自己推薦書

私は小学校3年生から始めた大好きなバレーボールを通して、自分の能力と可能性に挑戦するために対馬からバレーボールの名門校である長崎女子高校に入学することを決意しましたしかし、長崎女子高校のバレーボール部のレベルの高さは想像以上で、入部当初から技術面はもちろん、自分の精神的未熟さを痛感し、連日のハードな練習と先生の指導が理解できていても実行できない自分へのはがゆさから、自己嫌悪に陥ったこともしばしばありました。それでも、自分の力を信じ、向上心を捨てずに「うまくなりたい、強い自分になりたい」と、練習を重ね、やがてレギュラーとして「春高バレー」など県内外の大会にも出場できるようになりました。私の三年間は打倒「九州文化学園」の日々であったといっても過言ではありません。宿敵九州文化学園は私が在校中に二度の日本一に輝く強豪で私たちのチームは全国大会では上位にいく力があるにもかかわらず県大会ではどうしても勝てませんでした。最後の高総体をまえに私たちは悔いの残らないようモチベーションを高く保ち、勝つために何が必要かを基本に立ち返って確認して、全国大会への切符を獲得する最後のチャンスにすべてをかけました。そして迎えた九州文化学園との試合は今までにない白熱したものとなり、この時初めてセットを奪取しましたが惜しくも破れ全国大会への切符には手が届きませんでした。終わってみれば、三年間絶えず努力し続けてきた充実感よりも目標に達することができなかつた悔しさの方が大きく胸中に残りました。しかし、この悔しさをこれからの私の新たな挑戦の活力としていきます。

部活動からは、向上心、体力、自律心などを体得しました。また特別進学クラスでの厳しい勉強と部活動の両立から、集中力と時間を大切にすることを学びました。対馬から長崎にきて三年自画自賛になりますが精神的にも肉体的にもずいぶん成長したという自負があります。

部活動を通して、精神的に成長していく過程が打倒九文への強い思いと共に伝わってきます。A子さんは強い向上心、自律心とともに克己心にあふれるがんばり屋さんだと思います。ところで、この自己推薦書には特に良い点が2つあります。一つは、幸か不幸か「成功物語」でなかったところです。挑戦しても挑戦しても倒せない強豪九州文化学園に対し、どこまでもどこまでも、めげることなく立ち向かっていく姿勢が読み手の胸を打ちます。逆説的ですが、1セット取っただけだから良かったんです。もし勝っていたら、「努力は報われる」タイプの文章となり、この文章の魅力は半減するにちがいありません。もうひとつのよさは、「三年間絶えず努力し続けてきた充実感よりも目標に達することができなかつた悔しさの方が大きく胸中に残りました。」という一節の新鮮さです。多くの人は、ここは「目標は達成できなかったが精一杯努力したことで充実感が残った。」と書きたくなる場所なのです。

A子さんはこれからも、様々なことに挑戦し、失敗してもめげず、悔しさをバネに精進を続けていくことでしょう。私もA子さんの考え方、生き方に、ここから拍手を送りたい気持ちです。

書き方のポイントは

Aしたことをとおして Bを学んだ Bになったです。

Bさんの自己推薦書

私は小学生の頃から、明るい性格で自分に与えられた仕事は責任を持って果たしましたが、自分の苦手なことからは逃避する傾向がありました。特に、知らない人の中に入ることや人の前で話すことが苦手でした。中学の三年生の頃から自分の弱点を克服したいと考えていましたが、それは容易なことではありませんでした。そんな私に転機が訪れたのは高校二年生の春でした。英語担当で、担任の松本先生から、英語の発音と文章表現力を評価され、英語の弁論大会に出てみないかと誘いを受けました。話を聞いてすぐに嫌だと私は思いました。大勢の人の前で話をすることは、私には考えもつかないことでした。しかしこれを契機に苦手なことから逃げてきた弱い自分を変えたいと言う気持ちから思い切って挑戦することを決意しました。ところが、実際に練習を始めると、クラスの仲間の前ではもちろん、先生の前でさえとても緊張しました。自分が人から見られていると思うだけで落ちつかなくて、声は全く出ず、やはり自分はだめだと自信をなくしました。しかし、約六ヶ月の練習を通して先生の厳しい指導から逃げたいと思う弱い自分に勝つことができ自分を変えることができました。コンテスト当日は50名を越す聴衆の前でスピーチをおこないました。入賞こそ果たせませんでした。今までのどの練習の時よりもしっかりとしたスピーチをすることができました。スピーチを終え、これまでに経験したことのない満足感と自信が湧いてきて、苦手なことから逃げる私は変わりました。この日を境に私は、何事にも積極的に挑戦する行動力ある人間に成長できたのです。

自ら進んでペンギン水族館でお仕事のお手伝いをさせていただいたり、昨年に続いてスピーチコンテストに応募したのもその現れだと考えます。これからの人生には様々な困難が待ち受けていると思いますが、自分の長所であるチャレンジ精神を活かし日々旺盛な生活を送りたいと考えています。

Bさんは高校2年次に松本先生と出会ったことで、人生の転機を迎えます。人間には誰でも得手・不得手があります。Bさんは人の前に出ることが苦手だったんですね。ところが英語の弁論大会に出ることになった。50名の聴衆の前でBさんは緊張しながらも見事にスピーチを終えて、引っ込み思案な自分からチャレンジ精神旺盛な自己へと成長します。積極的に行動する、迷ったときは前に出る姿勢は人生を切り開いていく上で大切なことです。

Aさん・Bさん2人の自己推薦書には共通点がありますね。分かりますか。

正解を言います。2人に共通しているのは、何かに挑戦し努力する過程の中で自己改革に成功し、人間的に大きく成長している点です。もちろん、努力に見合った素晴らしい結果が得られるに越したことはありません。しかし、努力や精進が常に優勝などという形で報われるとは限らない。限らないけれども、自己推薦書が求めているのは「結果」ではないんですね。受験者が何かに挑戦し努力する過程の中でいかに自己を改革し、人間的に成長したかという点を評価するのです。したがって、バレーボールやスピーチで優勝する必要はないのです。自己推薦書は「自慢話」を書く訳ではありません。

* 欠席や遅刻をしないように努めた。清潔な教室を維持するために力を尽くした。材料は皆さんの3年間の高校生活の中にごろごろ転がっています。

私が高校生活で最も努力したことは、核兵器廃絶を世界にアピールする「高校生一万人署名活動」です。私は、被爆地長崎に生まれ育ったものとして平和に対して自覚を持って行動できる人間になると、県下の高校生が主体となって活動を続けている高校生一万人署名活動に参加してきました。一年生の時には、ひたすら先輩方の後を追って活動を続ける日々でした。しかしこの一年間で、活動の意義を実感し平和に対する自分の考えを深めることができてきました。二年生では、在韓被爆者の現状調査と韓国の若い世代と一緒に平和について考えるために釜山に渡り、在韓被爆者の方々からは戦中戦後の苦難に満ちたお話を伺い、日韓の高校生が交流を深めて共同で署名活動を行いました。この体験から、私は両国の複雑な関係の重い歴史的意味と今後日本がアジアに果たすべき役割とをしっかりと学ぶ必要性を強く感じました。3年生の夏には、活動の輪を更に広げるために単身日本から一番遠い国であるブラジルに行きました。ブラジルでは「日本祭り」というイベントに参加し、八千人以上の署名を集めることができました。日系の方だけでなく被爆とは無縁の第三国の人々も署名に協力してくださり、活動の広がりを実感することができました。しかし、批判も受けました。「国連で一番力を持っているアメリカが核兵器を放棄しないのに、署名を集めて国連に持って行っても無理だよ。」その言葉はとてもショッキングなものでした。けれども、「無駄だと言ってしまうことは簡単だが、それでは状況は何も変わらない。一人一人がそれぞれの立場で行動を起こすことが大切だ。」という思いを伝えると、その方は署名に協力してくださいました。3年間の活動を通して、今の私は自信を持って若い世代が平和活動に参加していく意味を主張することができるようになりました。そして、広い視野でものを見たりしっかり自己を表現する能力を身につけることもできました。

Cさんは、高校3年間、核兵器廃絶を世界にアピールする「高校生一万人署名活動」に積極的に参加してきました。1年生・2年生・3年生と学年を追って活動にたいする意義をより深く理解し、Cさんが成長していく過程が、活動内容の深化に裏打ちされてしっかりと書かれています。この作品の圧巻は3年次のブラジルでの体験で、署名活動の意味に疑問を投げかけられたときのCさんの応答以降にあります。「無駄だと言ってしまうことは簡単だが、それでは状況は何も変わらない。一人一人がそれぞれの立場で行動を起こすことが大切だ。」といいきり、「今の私は自信を持って若い世代が平和活動に参加していく意味を主張することができるようになりました。」と結ぶ結末は、文章展開の柔らかいタッチとは裏腹に内容的には大変力強い説得力を備えたものとなっています。

また、「得意なこと」の字数が少ないように見えますが、課題は「努力したことや得たこと」であって「努力したことと得たこと」ではないので許容範囲であり問題はありません。

Dさんの与えられた課題「自己紹介と志望理由を述べなさい」

私の理想とする人物は、私の母です。母は厳しい社会の競争の中で自立した女性としてこれまで立派に生きてきました。そして、自分の理想を追い求めるための努力を惜しまず、深い愛情と信念を持って私と弟を育ててくれました。

私は18年間母の背中を見て育ちながら、人生の苦境の中でも挫けない強い精神力を持った人間、自分とは異なった価値観や感性を持った人たちと理解しあい生きていく姿勢を持った人間になりたいと考えるようになりました。しかし、現実自分が目標とするような人間に成長することは容易なことではありません。明るく、行動力のある私で

すが、わがままな面が出て友人と衝突することもあります。テストの前に映画を見たり、読書の誘惑に負けて十分な勉強ができないこともあります。そんな弱い自分を少しでも改善するために、高校3年間は体育祭や文化祭などの学校行事に積極的に参加することで、多くの人と接し、協力し合うことに努めました。また、私が通う学校の校訓のひとつである「共生」の精神を実践に移して、校外清掃や外人墓地の草取り、通学路に落ちているごみを拾って登校する「真心運動」などの奉仕活動に参加してきました。みんなの力がひとつになって行事が成功し、街がきれいになっていく様子を見てみると充実した気持ちになり、自分の心までもが洗われていくような気がします。

私を含めて、現代の子供たちは、あふれるようなモノと情報に囲まれて生活しています。しかし、テレビゲームで遊び、進学のために塾に通い、孤食を余儀なくされる子供たちの生活は真に豊かであるとは言えないと思います。私は貴学において、少子化や女性の社会進出が進み、急激に家庭のスタイルが変化 する中で、私の理想である「強い精神力持ちながらもやさしい ところを持った子供」を育てるために児童を取り巻く環境や心理について深く学びたいと考えています。そして、施設や小学校での実習を通して子供たちとじかに接するなかで、子供たちとのコミュニケーションの取り方や、教授法を体得していきたいと考えています。

Dさんは自己紹介文と志望理由を一つの課題として提出するよう求められました。さてどう書くか。考え方は二つです。一つは、「私は～」と自己紹介文を書き、次に「次に志望理由ですが」と全く別の文章として自己紹介文と志望理由を述べる書き方です。この書き方は読み手にもわかりやすく、書き手にも書きやすいのでおすすめです。

しかしDさんは、もう一つの方法、つまり、自己紹介をしながらその内容を志望理由と結びつけながら書くという手法を取りました。自己紹介と志望理由の2つを書くという条件を満たしていれば、もちろんこれでもかまいません。Dさんの文章ではお母様の生き方を理想としながら自分の生き方を見つめ、自分を高める努力の過程の中で現実を見つめ、進学後学びたいことを見つけていくという文章展開に持ち込みました。構成は悪いとは思いませんが、前半が重く、後段が薄い印象は免れません。母を理想とし、理想に近づく努力を惜しまないと言うことと教員を目指すこととの間の連絡が薄いのです。なぜ教員か。どんな教員か。そのために何を学びたいのかをしっかりと書く必要があります。私が採点者なら40点かな。

将来「障害児の教育」を目指すEさんの「貴女自身を語りなさい」



私には大切にしている3つの言葉があります。一つは「真心」そして「共生」。最後に「敵は己のうちにあり」です。初めの2つは本校の校訓であり、3つめは昨年度の卒業生であるバスケットボール部の主将が私達特進クラスの生徒に残して下さった言葉です。

私は考え方や価値観がどんなに異なっても、「真心」を尽くして接していけば必ず人は心を通い合わせることができるものだと思っています。ですから私は常に真心を持って、人の立場にたって考え行動しよう、困っている人がいたらできるだけその人の支えになれる人間になろうと考えて日々を過ごしています。

また、「共生」の時代だといわれている21世紀は、宗教や政治、文化の違いを超えて人々がともに手を携えて生きていかなければならない時代です。十人十色という言葉がありますが、人間が100人いれば100の個性があり相違があるのは当然です。妥協を求めるのではなく、その相違を認め合いながら自分をしっかりとって生きる人間でありたいと思います。「障害児と健常児の共生」の原点も同じところにあるのではないのでしょうか。わずか18年の人生ですが、様々な体験をしてきました。日本舞踊を通してのお年寄りとの触れ合いや近所の障害児との交流。高校に入学してからは、学校の周辺や

公園、国際墓地の清掃やプルタブ運動などの奉仕活動。そして、長崎養護学校への訪問。このような体験を通して、私は「真心」や「共生」の精神を身につけ、その大切さを学ぶことができました。

先輩が残してくださった「敵は己のうちにあり」という言葉からも大きな影響を受けました。日本一を目指して、高校生活のすべてをかけ、努力されている先輩の姿を見、この言葉をいただいて私は一つの決心をしました。「どんな困難があるともきっと志望校を突破しよう」。私は以前から、珠算を8年間日本舞踊を3歳から現在まで続けるなど忍耐力や粘り強さには自信を持っていました。しかし、先輩の言葉をお聞きし、志望を貫く勇気をいただきました。特別進学コースでの厳しい授業や補習が辛くて投げ出したくなった時も、成績が思うように伸びず悩んだ時にも、級友と励ましあいながら自分に負けまいと勉学に励んできました。お陰さまで、ただ学力が身につただけではなく、仲間とともに学ぶ楽しさや充実感、達成感など多くのことを味わうことができました。

私は今大切にしている3つの言葉を大学入学後も忘れることなく、養護学校の教師になるための知識や技能を身に付けるとともに教養を積み人格の向上に努めていきたいと考えています。

なかなかシビレル書き出しです。「真心」・「共生」・「敵は己のうちにあり」ですか。Eさんはかなりの書き手ですね。主題、具体例、展開、結びとそつがありません。珠算や日本舞踊といった特技、特進コースに在籍しての体験もうまく使いこなしました。文句なく、合格点がでる自己紹介文です。

将来スクールカウンセラーになるという目標を持っている「県立長崎シーボルト大学」にAO入試で臨んだFさんの自己推薦書です

私はお互いが助け合い支え合うことこそ21世紀を生きる私たちに必要なことだと考える。私は自分の長所である何事に対しても積極的に取り組む行動力を生かし、地域、日本、世界へと「共生」の輪を広げて行きたいと考えてきた。自身はもちろん、生徒会長として組織的に奉仕活動と平和活動を推進することで自分の住む街の美化に努め故郷や人を愛する気持ちを共有し、平和で優しい環境や人間の輪を広げたいと考えたのだ。私が取り組んだ奉仕活動はプルタブ運動・真心運動・校外清掃の三点だ。

プルタブ運動は「プルタブ」を900キロ集め車椅子と交換して戴くという運動だ。生徒会の提案で実施され3年経つが、開始当初の熱意が薄れていたため、この運動の意義を生徒全員で再確認し、奉仕活動の盛んな本校の核となる運動に再編するための提案と努力を始めた。プルタブ入れの箱を校内の随所に設置し、週ごとに集計をして校内の随所に表示し、成果と達成感を参加者が共有できるよう工夫した。現在プルタブの総数は300キロに達したが、まだ目標数の三分の一に過ぎない。しかし何時の日か後輩たちが障害を持つ方々に車椅子を寄付してくれることと信じている。

「真心運動」は生徒各自が空き袋を持ち、通学路に落ちているゴミを登下校時に拾って分別して捨てる運動だ。私の母校は長崎一の繁華街思案橋に近く、夜には多くの若者や旅行者で賑わうが翌朝の街にはタバコの吸殻を初めゴミが散乱して、その光景は社会性や公共心を欠いた現代人の姿を象徴しているかのようである。生徒会では分別されたごみの後始末、運動への参加呼びかけ、学期末の表彰など運動の活性化と円滑化を目標に仕事に取り組んできた。また、有志で学校付近の清掃活動も行っている。

平和活動では、被爆都市「ナガサキ」に生まれ育った高校生として「高校生1万人署名」と「ミサイルよりもえんぴつを」を合言葉に戦争や貧困に苦しむアジアの子供たちへ学用品を贈る運動を推進したり、爆心地を巡り記録集を作成して平和の尊さをアピールしてきた。また平和登校日には平和に就いて考えるディスカッションのパネラーとし

て意見を述べたり、林京子先生の「まつりの場」の朗読を行った。文化祭を初めとする諸行事は「学校行事は生徒が主役」を合言葉に生徒会を中心に生徒全員で力を合わせ、企画、立案、運営を行った。また昨年の50年に一度の「長崎夢総体」では県民を代表して新体操競技の開会式において歓迎の言葉を述べた。また、放送部と弓道部に在籍し、コンテスト出場や、各行事でアナウンスを行ってきた。弓道部での活動を通しては精神面で鍛えられ、忍耐力と集中力が身に付いた。

学校生活においては3年間クラス編成が変わらず国公立大学突破という同じ目標を持った仲間と過ごしたことにより強固な友情を育むことができた。資格は漢字検定準2級、剣道初段、英語検定3級、弓道3級などの資格を持っている。

Gさんの自己推薦書（字数制限なし・様式を問わず）

私の高校生活

1. 奉仕活動

- ア. 「プルタブ運動」の推進
- イ. 「真心運動」の継承
- ウ. 校外清掃活動への参加
- エ. 「悟真寺」の国際外国人墓地の清掃活動参加
- オ. 「高校生1万人署名」・「1万本の鉛筆運動」活動参加協

2. 教科外活動

- ア. ガーデニングクラブに3年間在籍 教室に花を配達
2年次副部長・3年次部長
- イ. 1年次：学習委員・美化委員・学級副委員長
2年次：図書委員・図書委員・学級委員長
3年次：体育係・体育係・体育祭実行委員

【私の活動】

1. 奉仕活動について

私が奉仕活動の意義の深さについて考えるようになったのは長崎女子高等学校に入学してからです。長崎女子高等学校の校訓に『真心と共生』があります。21世紀は共生の時代といわれています。しかし、人種や宗教、思想の違いなどから現在も世界のあちこちで戦争の火種は絶えず、多くの罪もない子どもたちや人々が傷ついて尊い命を失ったり、十分な教育を受けることのできない環境の中で生きていています。また、身近なところに目を転じてみても、「今さえよければいい。自分さえよければいい」という刹那的で自己中心的な価値観を持った人々が増加し、生活環境が乱れてゴミで街が汚れていたり、障害を持った子どもたちの人権や学ぶ権利が侵されたりしています。そして、私たち「ナガサキ」に生まれ育った人間には平和を大切にし、長崎を世界で最後の被爆都市にしなければならない義務があると、小学校の頃から教わって育ちました。

決して大したことはできなくとも、自分にできる身近なところにある小さな事から実行することで日本の国を平和で住みよい国にするためにこれからも地道に努力を続ける生き方をしたいと思います。そして、常に向上心を忘れず、「真心」をもって高齢者の方や体の不自由な方のお世話ができる介護福祉士になりたいと思います。

ア. 「プルタブ運動」の推進

資料1「プルタブ10グラム24個」写真・プルタブ添付

以下 イ～ 写真や新聞記事など資料を添える

Gさんの場合には、形式も枚数も制限がありませんでしたので、まず、高校生活で携わったすべての活動を、

大きく 1.「奉仕活動」と

2.「教科外活動」の二つに分類して一覧にしました。次に、1.2.それぞれの総論を述べてから1.「奉仕活動」として、アから順に資料を使いながら具体的に活動内容を書き上げていきました。仕上げてみると全部で20枚ほどのレポートと7つの膨大な資料ができあがりしました。作成には2ヶ月ほどかかりました。F子さんが充実した高校生活を送ってきたことが豊富な資料からよく分かります。また、AO入試に臨む意気込みも十分に感じ取ることができます。

「志望する学部・学科に関連して自己アピールできることを自己の体験をもとに具体的に記入して下さい。」という言語学専攻を志望するHさんの800字の自己PR文。

私は高校生になって、平和活動とボランティア活動の一環として三度フィリピンを訪問しました。中学時代から英語が得意だった私は、高校では「読み・書く」力を基本として「話す力」を身に付けることを大きな目標にして勉強を続けてきました。そして、全商英語検定の1級と実用英語技能検定2級を取得し、英語の弁論大会でも「KGU杯英語弁論大会」で最優秀賞を戴くなど、英語における自分のコミュニケーション能力には多少の自信を持つようになっていました。したがって、世界の共通語ともいべき英語を読み、書き、話すことができればフィリピンを訪問しても現地の人たちと十分なコミュニケーションが取れると考えていました。ところが、実際にフィリピンを訪問してみると英語は確かに公用語ではありますが、それとは別にタガログ語というフィリピンの母国語があるということを知りました。そして、フィリピンの人々が母国語に誇りを持ち、大切にしていることに深い感銘を受けました。帰国後、アメリカやフランス、韓国、フィリピン、イラクの方々との交流を通して、私はことばと表現力、ことばと文化について真剣に考え、深い関心を抱くようになりました。そして、多様な文化を理解し、様々な世界の仲間と共生の道を歩むためには、自分の母国語である日本語の習熟はもちろん、幅広いコミュニケーション能力の習得と多文化間の交流を活発に行う必要性を感じるようになり、「JICA国際協力エッセイコンテスト」でも「ことば」にまつわるエッセイを応募して優秀賞を戴きました。コミュニケーションの取り方には、「ことば」以外にも、手話や点字、メディアなど多くの手段がありますが、今の私は「ことば」が持つ魅力と奥深さに強く惹かれています。貴学進学後は、日本語や英語の総合的な運用能力を伸ばしながら、世界から消えていこうとしている多くの民族のことばの継承や研究にも力を注ぎたいと考えています。

Hさんは幅広くすばらしい活動歴を持っていますね。進学後の専攻とのつながりを意識しながらの構成も立派です。

福岡大学スポーツ科学部

課題1～5 Iさん

1. 高校時代に一生懸命に取り組んできたこと

私が勉強と共に高校時代に一生懸命取り組んできたことは、言うまでもなく課外活動の新体操競技です。私は団体・個人の双方の種目に出場してきましたが、特に団体ではキャプテンとして自分の心身のコントロールと共に他の4人のメンバーの体調や精神の

管理にも心を配る必要があって多くの苦勞もしました。しかし、おかげさまで人の気持ちになって話をしたり、行動したりすることもできるようになり中学時代までと比べると人間として一回り大きく成長することができたように思います。

2. 自分自身をアピールしたい点を記入してください

人の意見には素直に耳を傾けながらも、常に自分の考えや生き方をしっかり持つておくというのが私の生活信条です。また、学級委員長や新体操部でキャプテンを任された経験をとおして、話し合いをするときにはみんなが納得するまで意見を出してもらい、それをまとめて集団を責任を持って粘り強くリードしていく行動力や積極性も身につけることもできました。体育祭や文化祭などの学校行事には積極的に取り組み、今年の体育祭では応援団のリーダーを務めています。

3. 本学部への入学を希望した理由

私は新体操の競技者として、また将来は高等学校の保健体育の教員として、課外活動の指導者として必要な「知・徳・体」の総合的でバランスのとれた資質を貴学の優れた指導者のもとで養いたく志望致しました。貴学スポーツ科学部では総合科学的視点からスポーツを捉え、最新のスポーツ医科学に基づいたトレーニング法や指導法を学ぶことができます。私は今まで技術面もさることながら、メンタルな部分をいかにして鍛えていくかを自分の一つのテーマとしており、貴学の必修科目である「スポーツ心理学」の受講を今からとても楽しみにしています。

4. 大学卒業後の将来設計について記入して下さい

貴学卒業後は母校に戻り、保健体育の教員として生徒達に体育や保健の授業を通して、健康な心身の育成をはかると共に新体操部の顧問として後輩の指導に当たるのが私の目標です。そして、私たちには成し遂げることのできなかつた全国制覇を果たすチームを育てることが夢です。また、ジュニアの指導を通して新体操の更なる普及に努めたり、高齢化社会が進行する中、社会体育の指導者として地域の方々と交流を深め、新体操の魅力を伝えることで健康で精神的にも豊かな人生を歩んで行かれるお手伝いをしたいと考えています。

5. 選抜に当たって特に評価してほしい事柄とその理由を記入して下さい

私は小学校の2年生で新体操にであって以来、11年間一心に練習に励んできました。中学までは所属するクラブチームの一員としての活動でしたが、高校は新体操の名門長崎女子高等学校に進学し、1年生のインターハイでは先輩方が地元長崎の「ゆめ総体」で全国11位に入られたのを励みにして、2年次では広島で行われたインターハイで9位に、また3年次は千葉で行われたインターハイで17位に入ることができました。曲に合わせた自己表現力の華麗さには自信があります。実技のテストでは余すところなく私の持ち味を見て頂きたいと考えています。

第7章【表記上の注意】

順不同

1. 与えられた字数の9割以上を目標に書く。通常字数が7割を割ると採点から除外される。逆に、字数が1字でもオーバーする ところも採点から除外される。

2. 「話しことば」を用いない。

「～けど」 「～だが」

「すごく」・「とても」 「大変」・「非常に」

3. 主語と述語の正しく呼応した文章を書く。文章のねじれは一文が長すぎるために起きることが多い。一文は2行半(50字)まで。3行以上の文章は必ず切れる箇所があるので、切る。

4. 副詞の呼応に注意。「まったく～ない」・「全然～ない」・「もし～なら」・「なぜなら～からだ」など。

5. 倒置法・体言止めは入試の作文・小論文では原則的に使用しない。(使っても1回)

6. 用紙の確認。「縦書きか、横書きか」書き始める前にしっかり確認すること。万一誤りに気づいた場合、書き直す時間がないと判断したときには、消さないで、欄外に解答用紙の縦、横を間違った旨、書き添えておくこと。(許されるか、失格になるかは不明ですが……)

7. 誤字注意・誤字脱字は一カ所につき1点減点なので書き上げた後必ず読み返してチェックする。

8. うまくなって良いので丁寧に書く。丁寧な原稿は、内容まで良いように錯覚するのが人の常である。

9. 原稿用紙の場合には、「原稿用紙の使い方」を守る。

第8章【はがき・手紙文の書き方】

1. はがきの場合も手紙の場合も基本的に書き方は変わりません。簡潔に構成を述べますと、

前文
本文
末文
(あと付け)
副文



と、なります。

前文

ア. 頭語:

友人のお宅を訪問して「こんにちは」とかわす挨拶のようなものです。拝啓・謹啓・前略などです。前略については後に述べますが、その意味をよく知って使う必要があります。女性に限り「一筆申し上げます。」を使うことがあります。私、個人的には「一筆申し上げます。」が好きです。

イ. 時候の挨拶:

季節の挨拶です。

季節感と、土地柄が現れた文章がよいですね。4月なら、「風頭山の桜も満開となり、い

よいよ春本番となりました。」とか、「稲佐山にも黄砂がかかりいよいよ春の訪れを感じる頃となりました。」などですね。9月や10月なら「おくんちも間近にせまり長崎では街のあちこちからお囃子の音がひびくころとなりました。」とかですね。

ウ．安否

相手が先、自分が後です。

「一別以来ですが、その後先生にはお元気でおらっしゃいますか」、「私もおかげさまで元気に、勉学に部活動にと励んでおります。」。こんな感じです。相手が、会社の場合ですと、「御社にはますますのご隆盛のこことお喜び申し上げます。」などと書きますね。

エ．感謝やお詫び

「日頃から何かとお世話様になりまして、誠にありがとうございます。」とか、「永らくご無沙汰をいたしまして、お詫び申し上げます。」を入れることもあります。

【要注意】

ア～エを「前文といいます」。従って、頭語に「前略」と書いた場合には、「前文を略します」と書いている訳ですから、

「前略、校庭の緑も燃えて、いよいよ春本番となりました。始業式が始まったばかりで先生はお忙しい毎日を送っておられると存じます。」

などと、前文に当たる内容を書いてはいけません。

本文

このはがき・手紙で「伝えたいこと」です。前文からの入り方は、文章を転換するとき用いる「さて、」とか「ところで」を使うと良いでしょう。

「さて、今回お手紙を差し上げましたのは、……」
といった具合です。

末文

ア．結びの挨拶：

主文の最後に当たって相手の無事を祈る言葉を添えます。「季節の変わり目です。お体くれぐれもおいとい下さい」・「寒さますます厳しき折から、風邪など引かれませんようお気をおつけ下さい」などです。

イ．結語

頭語で「こんにちは」と挨拶をして、手紙文に入りました。結語は「さようなら」のごあいさつです。最もポピュラーな「拝啓」には「敬具」が良いでしょう。女性に限り「かしこ」（「かしこし」の語幹で、「おそれ多い。つつしみ敬う。」の意）を使うこともあります。

あと付け

ア．日付 本文よりやや小さい字で本文から一行空け、1・2字分下げて書きます。

イ．署名 姓名共にフルネームで書きます。書く位置は日付の次の行で下で、やや大きく本文の最後と下が揃うように書きます。

ウ．宛名 受取人の姓名です。敬称は一般的には「様」です。「先生」の場合もあります。書く位置は署名の次の行の上に差出人の署名より大きく書きます。

エ．「わき付け」

特に親しくて尊敬している人への便りの場合には、宛名のやや下に敬意を表すために、「侍史」・「尊前」を、一般には「机下」・「座右」を記すことがあります。また女性だけが用いるものに「みもとに」・「御前」があります。わき付けは、封筒の表書きと統一しなければなりません。なお、はがきには用いません。

副文

副文というのは、基本的には、手紙を書き終えた後に追加して書き加える文章ですが、特に何か相手に伝えたいことがある時に意図的に用いる場合もあります。副文の書き始めは一般的には、「追伸」・「二伸」が多いように思います。目上の人に対しては 失礼に当たるので普通は使いません。

手紙文【 例 文 】

一筆申し上げます。 立秋も名のみで、毎日うだるよう
猛暑が続きます。 先生とは一別以来ですが、その後お元気でいらっしゃいますでしょうか。 私もおかげさまで元気に、毎日を過ごし、この夏は看護師になるという目標の達成に向けて夏季補習に励んでおります。
さて、このたび平成15年度卒業の3年5組の仲間が集って同窓会を開催することになりました。会場は 亭で、日は8月15日の午後6時開催です。県外から帰省してきている懐かしい顔も揃います。公私ご多忙とは存じますが何とぞ出席下さいますようお願い申し上げます。お手数をおかけしますが、ご出席の諾否を同封のはがきにて、幹事の私まお知らせ下さい。
まだまだ厳しい暑さが続きます。季節柄くれぐれもご自下下さい。まずはお知らせとお願いまで。

かしこ

平成十七年八月十日

松本 亜紀 先生

西村 直子

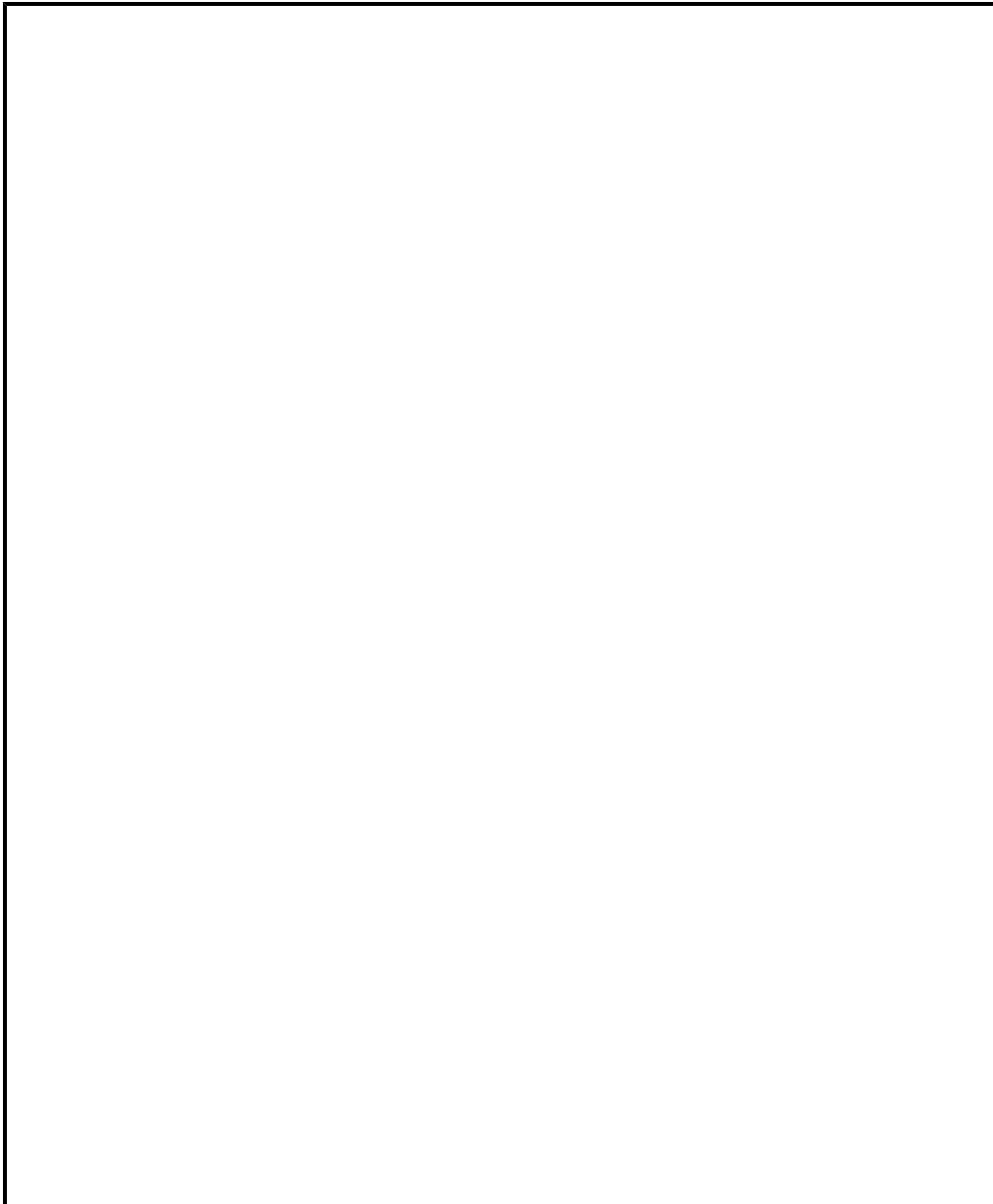
- | | | |
|----------|---|-------|
| 頭語 | ・ | 結びの挨拶 |
| 時候の挨拶 | ・ | 結語 |
| 安否（相手が先） | ・ | 日付 |
| 安否（自分が後） | ・ | 宛名 |
| 本文 | ・ | 自署 |

それでは、上の文章を参考にして中学の恩師宛てに体育祭のご案内の文書をかいてください。まずは 頭語から 自署まで箇条書きにしてそれぞれの文章を書いてみましょう。

.....

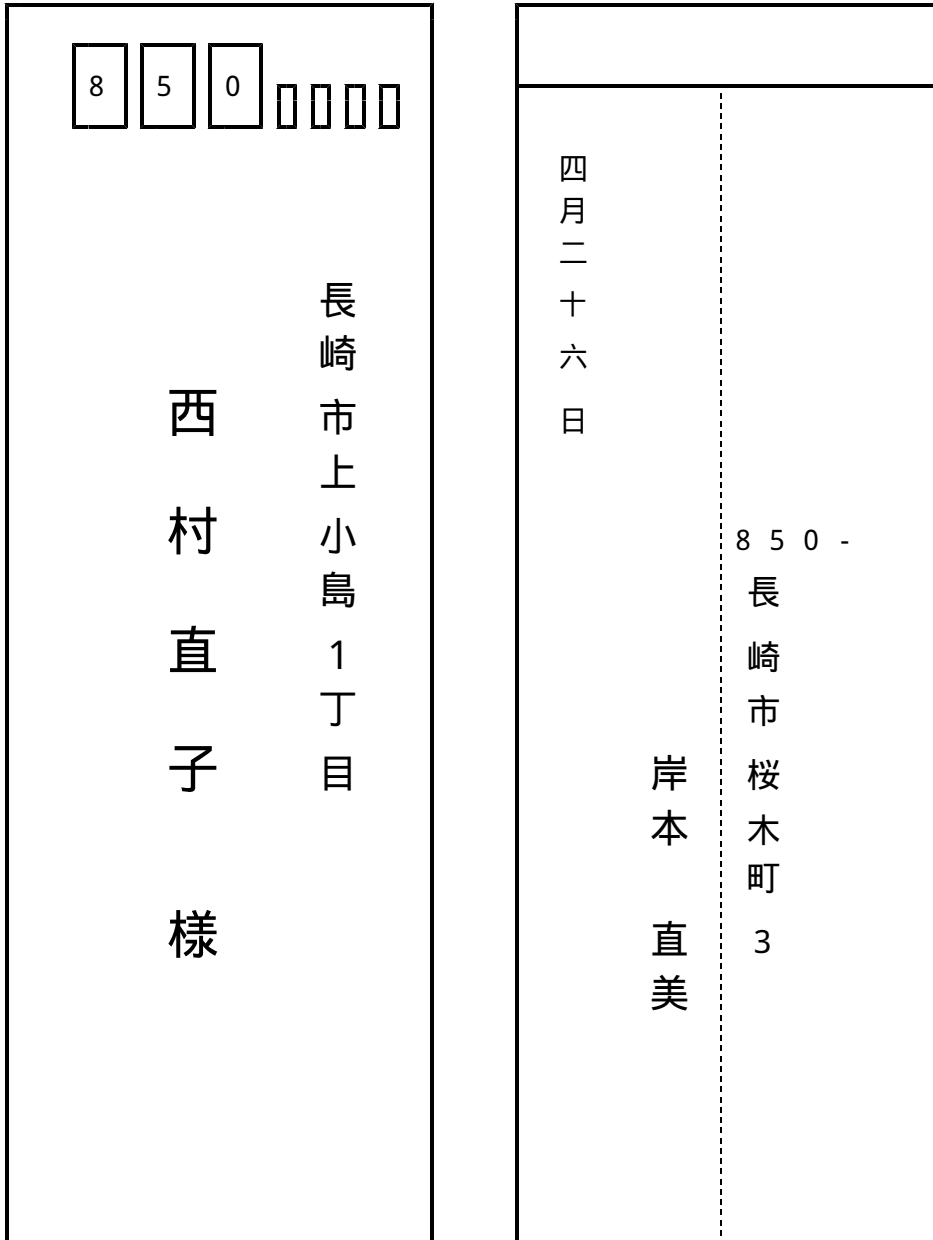


では、 から をつないで手紙文を完成しましょう。



2. 封筒の書き方

- 表 ア. 宛名は中央 イ. 宛先が二行にわたる場合は一行目が大きい
裏 ア. のりづけ イ. 住所は署名より小さい ウ. 日付は左上
封筒の書き方



後書きにかえて

私は今年で奉職26年目を迎えますが、小論文、志望理由書を見るようになって10数年になります。ちょうどその頃から、大学が推薦入試を導入し始めて、出願書類として、志望理由書と自己推薦書の提出を求められるようになったんです。試験は、小論文と面接でしたから今と同じですね。ただ、その頃は今と違って、よほど何か特別な活動をしていたり、成績が優秀な生徒しか推薦入試に臨むことは不可能でしたから、年に3名から5名の数だったんですね。AO入試は当時はまだ実施されていませんでした。それが10年くらい前から一気に門戸が広がった。AOも始まった。今では年間90名程度の生徒がAOや推薦入試での受験をしますし、就職では履歴書に志望理由欄がありますので、大半の生徒が志

望理由書や自己推薦書、作文、小論文を書くようになりました。

ところが、この小論文、理由書、志望動機の指導がなかなか難しいんですね。書き方そのものは、書くパターンさえ身につけてしまえば、何でもないんですがそれをうまく皆さんにお伝えできない。みなさんも、「書けない。書けない」と頭を抱えてしまう。早い生徒で20日、まあふつうはひと月あれば「形」になりますが、半年がんばったがダメだったという生徒もいますね。昔から「文は人なり」といいますね。これはまさに的を射たことばです。幅と深さのある懐の深い文章を書くためには、自分が豊かな人間に成長していかなくてはならない。毎日毎日の生活が、そのまま「自分の文章」を作っていくことになるのです。人生修行ですね。

そう言えば、文章には人柄はもちろん、筆者がその文章を書いているときの心理状態もです。「ここで筆が止まって、頭をかかえて考え込んでいるな。苦し紛れに何とか文章を伸ばそうとう無理をしだしたな。」「具体例に入り、気分良く一気に筆が走っているな。」など読んでいると皆さんの気持ちが手に取るように分かります。今、『文章心理学』という学問の分野が人気になっています。私もいずれゆっくり勉強したいと思う学問の一つです。

「書き方」はじきに会得できます。大変なのは「どう書くか」ではなく「なにを書くか」なのです。この「なにを」は教えてあげることができない。皆さんの人間としての力そのものが問われるのです。就職、進学の試験に臨む日までどれくらいの日が残されているのか分かりませんが、この冊子が少しでも皆さんのお役に立てればとても嬉しいです。

30歳になる少し前に、古典文法の基本的な事項をまとめた冊子を、今はもう退職された先輩の先生のお手伝いをして作ったことがありました。私にとっては懐かしい思い出で、今はすっかり赤茶けていますが、それでも一冊、机の中に大切に残しています。月日は流れて、私は今年（平成17年）の5月16日で50歳になります。50歳という節目に、十分なものではないけれども一応今回この冊子をまとめることができ、長い間自分の中でやり残してきた宿題を一つ仕上げることもできたような気がして、少しほっとしています。

「書かいでか」を一応まとめてから、5年が経ちました。その間私は、生徒のみなさんに作文や小論文の書き方をどのようにしたら上手く？伝えることができるだろうかと、自問を続けてきました。そして、55歳を過ぎて持ち時間も残り少なくなった今年の夏に、なんとか2010年版を改訂することができました。まだまだ十分にはほど遠い代物ですが、少しでも生徒のみなさんのお役に立てれば幸いに思っています。この冊子を読んで、要望や感想がありましたら西村まで知らせていただくと大変嬉しいです。

2010年初秋



七転八起

2005年4月26日 発行

2010年9月 1日 改訂

著 者 西村 直温

発行所 黒猫書房

長崎市黒猫町黒猫横町三丁目